デジタルサウンドプロジェクター

YSP-900

取扱説明書

ヤマハデジタルサウンドプロジェクターYSP-900をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

●本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

●保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

放熱用の通風孔から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

移動

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

電源を入れる前や、再生を始める前には、デジタルサウンドプロジェクター音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

機器を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届く状態でご使用ください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

IntelliBeam

「インテリビーム」「IntelliBeam」は、ヤマハ株式会社の商標です。

CINEMA DSP DIGITAL

「シネマDSP」「CINEMA DSP」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

DOLBY DIGITAL PRO LOGIC II

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts 5.1 NEO:6

DTSおよびNeo:6はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

SRS TruBass

TruBass、SRSと記号はSRS Lab, Inc.の商標です。TruBass技術はSRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/857,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

世界に広く特許申請中の 1Ltd からライセンスを受けています。

' ' および、'Digital Sound Projector™' は 1Ltd の商標です。

もくじ

本機について

設置・接続する

準備する

設定する

基本操作

応用操作

付録

はじめに

映画館にいるようなサラウンド空間を実現するためには、いくつものスピーカーをそろえ、リスニングルームのあちこちに設置するのが従来のマルチチャンネルサラウンドシステムの常識と考えられてきました。その常識を打ち破り、煩雑なスピーカーの設置や配線といったネガティブな要素を取りのぞいたのがYAMAHAデジタルサウンドプロジェクター「YSP-900」です。

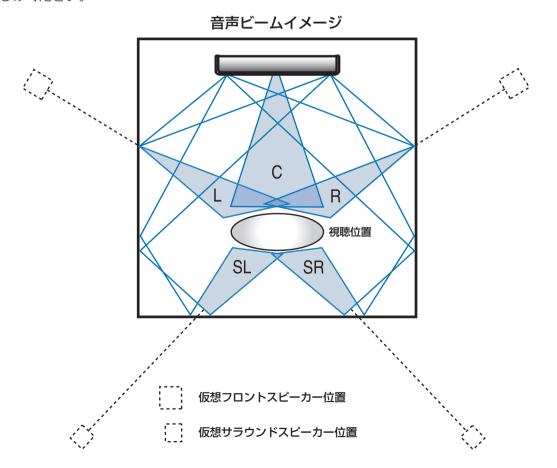
YSP-900は、内蔵した2個のウーファーと21個の小口径スピーカーをアレー（格子）状に配置することにより、スリムなデザインと大迫力のサラウンドサウンドを実現しています。

小口径スピーカーのひとつひとつの遅延時間を微妙にコントロールすることによって、小口径スピーカー全体でチャンネルごとに指向性の高い音声を作り出します（音声のビーム化）。ビーム化された音声の指向性（ビームの角度）は、遅延時間を変えることによって調節しています。

フロント右（R）、フロント左（L）、サラウンド右（SR）、サラウンド左（SL）のそれぞれのチャンネル音声に対して音声のビーム化を行い、投射されたビームはリスニングルームの壁に反射して視聴位置に向かいます。そして、ビーム化されたセンターチャンネル（C）の音声を加え、5.1チャンネルのリアルサラウンドを創造します。

これにより、まるでリスニングルームにいくつものスピーカーを配置したかのようなサラウンド空間を実現します。

YSP-900の機能をフルに活用し、部屋いっぱいに広がるリアルサラウンドの醍醐味を存分にお楽しみください。

音声ビームイメージ

本機の特長

デジタルサウンドプロジェクター機能搭載

音に指向性を持たせる(ビーム化する)ことにより、本機1台でサラウンド再生を実現します。
以下のビームモードでサラウンド再生が可能です。
- 5ビーム
- ステレオ+3ビーム
- 3ビーム

上記以外に、ステレオ再生機能およびマイビーム機能を搭載しています。

マイビーム機能搭載

ビーム化した音声を視聴者に直接向けることにより、周囲が騒がしいときにもテレビなどの音をはっきりと聞き取ることができます。リモコンのキーを押すだけで、自動的にビームの角度を調節します。

シネマDSP(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)搭載

世界の著名なコンサートホールや劇場などで実際に測定した音場情報をもとに作成されたシネマDSPを搭載しています。映画、音楽、スポーツの中から、お好みのプログラムを選択できます。

メーカーコード設定機能付リモコン

メーカーのコード(リモコンコード)を設定することにより、付属のリモコンでテレビ、DVDプレーヤー、ビデオデッキ、ケーブルテレビ/BSデジタルチューナーを操作できます。

自動設定機能(インテリビーム)搭載

サラウンド環境の設定を、付属のオプティマイザーマイク(高性能測定用マイク)を使用して自動で行うことができます。ビームの向き・音質を設定し、お使いになるお部屋に合わせて最適な視聴空間をつくり出します。

最新の音響技術に対応

以下の信号方式に対応したデコーダーを搭載しています。

- ドルビーデジタル
  DVDが標準採用している音声フォーマットです。
- DTS(デジタル・シアター・システムズ)
  DVDが採用している音声フォーマットです。
- AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)
  BSデジタル放送や地上デジタル放送が採用している音声フォーマットです。通常の2チャンネルステレオ音声に加え、5.1チャンネルのサラウンド音声や多言語の放送を可能にしています。
- ドルビープロロジック
  2チャンネル音声で記録されたソースをサラウンド再生します。
- ドルビープロロジックII
  2チャンネル音声で記録されたソースをサラウンド再生します。映画用、音楽用、ゲーム用のサラウンドモードが用意されています。
- DTS Neo : 6(ネオ・シックス)
  2チャンネル音声で記録されたソースから最大6チャンネルを抽出し、サラウンド再生します。本機では、5チャンネルの再生モードを使用します。映画用、音楽用のサラウンドモードが用意されています。

リスニングルームの条件

本機はビームを壁に反射させてサラウンドを実現するという特性上、以下のような環境では十分なサラウンド効果が得られなかったり、まったく得られない場合があります。

・ビーム経路上に壁がない部屋

・壁の材質が吸音素材でできている部屋

・部屋の大きさが幅3m～7m、奥行き3m～7m、高さ2m～3.5mにあてはまらない部屋

・本機から視聴位置までの距離が1.8m未満の場合

・ビーム経路上に出っ張った家具などの障害物がある部屋

・壁に近いところに視聴位置がある場合

・視聴位置が本機の正面にない場合

本書の記載について

・本書はYSP-900の設置・接続および操作方法について説明しています。他の外部機器の操作方法については、各機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

・本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。キー操作時、フロントパネルディスプレイに「Prohibit」と表示された場合、現在の状態では、該当キーの操作が適用できないことを表しています。

・ご注意 では操作・設定を行う際に留意すべき事項、ヒント では知っておくと便利な補足情報を記載しています。

・本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。

付属品を確認する

同梱されている付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

リモコン: 1個
(31ページ)

固定テープ: 4個
(21ページ)

メニュー表示用ビデオケーブル:
1本/1.5m (23ページ)

(黄)

ケーブル押さえ: 1個
(22ページ)

ステレオピンケーブル:
1本/1.5m (23ページ)

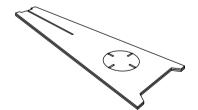
(白/赤)

単3乾電池: 2本
(31ページ)

オプティマイザーマイク:
1本/6m (36ページ)

光ファイバーケーブル:
1本/1.5m (23ページ)

サラウンド確認用DVD
(説明書付): 1枚

簡易マイクスタンド:
2枚1セット (37ページ)

デジタル音声ピンケーブル:
1本/1.5m (28ページ)

(橙)

ヒント

・付属のケーブルは、接続状況により余る場合があります。
・音声用の付属ケーブル(ステレオピンケーブル・光ファイバーケーブル・デジタル音声ピンケーブル)のうち、ステレオピンケーブルはアナログ音声信号を、光ファイバーケーブルおよびデジタル音声ピンケーブルはデジタル音声信号を伝送します。

サラウンドサウンドを楽しむまでの流れ

ヒント

この取扱説明書に加え、別冊の簡易接続・操作ガイドもご利用ください。

1 本機をリスニングルームに設置します。

「設置する」(18ページ)

2 本機をテレビやその他の外部機器と接続します。

「接続する」(22ページ)

3 リモコンや設定・操作の準備をします。

「リモコンの準備をする～」(31ページ～)

4 自動設定(インテリビーム)で、本機を使うための設定をします。

「本機を自動設定する(インテリビーム)」(36ページ)

5 音声を再生し、デジタル信号が本機に入力されていることを確認します。

「入力音声を再生する～」(45ページ～)

6 ビームモードやシネマDSPの設定を変更します。

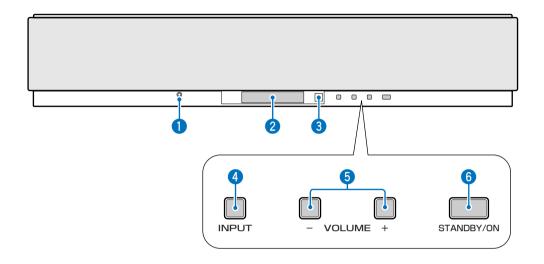
「サラウンド再生を楽しむ～」(49ページ～)

もっと本機でいろいろなことがしたい!という方は

7 詳細設定やリモコンコード設定などを行います。

「本機を詳細に設定する～」(63ページ～)

各部の名称とはたらき

前面(フロントパネル)

1 OPTIMIZER MIC端子

付属のオプティマイザーマイクを接続します(36ページ)。

2 フロントパネルディスプレイ

再生の状態や設定値などを表示します(14ページ)。

3 リモコン受光窓

リモコンの赤外線信号を受信します(32ページ)。

4 INPUTキー

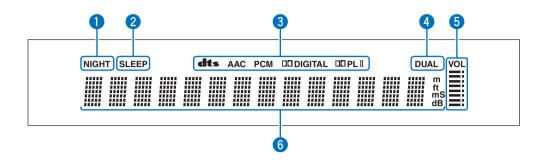
再生する機器を選択します。

5 VOLUME+/−キー

音量を調節します(48ページ)。

6 STANDBY/ONキー

電源のスタンバイ/オンを切り替えます(33ページ)。

フロントパネルディスプレイ

❶ NIGHT（ナイト）インジケーター

ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します（60ページ）。

❷ SLEEP（スリープ）インジケーター

スリープタイマー設定時に点灯します（62ページ）。

❸ デコーダーインジケーター

本機に内蔵されているデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケーターが点灯します（51ページ）。

❹ DUAL（デュアル）インジケーター

BS/CS/地上デジタルの音声多重放送が入力されているときに点灯します（59ページ）。

❺ VOLUME（ボリューム）インジケーター

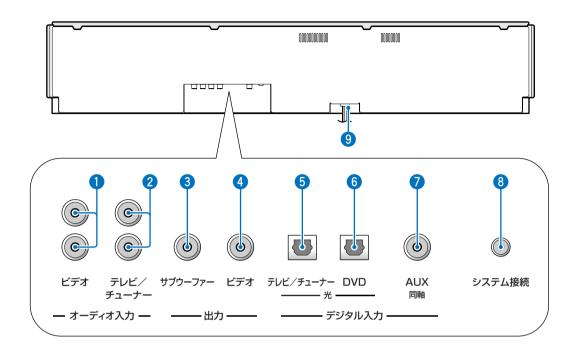
現在の音量を表示します（48ページ）。

❻ マルチインフォメーションディスプレイ

設定値などの情報を表示します。

ヒント

「フロントパネルディスプレイの明るさを設定する（本体表示設定）」（75ページ）で、フロントパネルディスプレイの明るさを調節することができます。

背面(リアパネル)

❶ オーディオ入力(ビデオ)端子

ビデオデッキとアナログ接続します(25ページ)。

❷ オーディオ入力(テレビ／チューナー)端子

テレビ／チューナーとアナログ接続します(23、26ページ)。

❸ 出力(サブウーファー)端子

サブウーファーと接続します(29ページ)。

❹ 出力(ビデオ)端子

本機のメニューを表示させるため、テレビの映像入力端子と接続します(23ページ)。

❺ 光デジタル入力(テレビ／チューナー)端子

テレビ／チューナーと光デジタル接続します(23、26ページ)。

❻ 光デジタル入力(DVD)端子

DVDと光デジタル接続します(24ページ)。

❼ 同軸デジタル入力(AUX)端子

外部機器と同軸デジタル接続します(28ページ)。

❽ システム接続端子

システム接続端子があるヤマハ製のサブウーファーとシステム接続をするときに使用します(29ページ)。

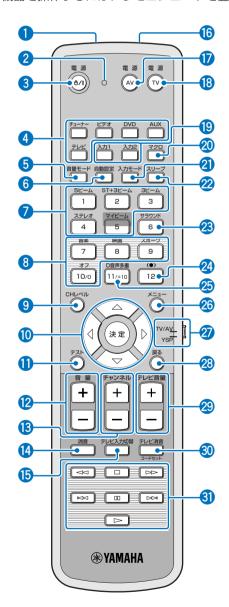
❾ 電源コード

ACコンセントに接続します(30ページ)。

リモコン

本機の機能は、YSPモードおよびTV/AVモードの2つのモードで構成されています。以下では、モードの切り替えによって同じキーでも機能が異なる場合に、それぞれのモード名を操作説明の文頭に記載しています。また、YSPモードのときにのみ機能するキーについては、操作説明の文頭に「YSP」と記載しています。リモコンの基本的な使い方については33ページをご参照ください。

ヒント

外部機器を操作するには、リモコンコードを登録する必要があります(81ページ)。

❶ 赤外線送信部

リモコン操作用の赤外線信号を送信します(32ページ)。

❷ トランスミッションインジケーター

リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに点灯します。

❸ 電源(⏻/I)キー

YSP-900の電源のスタンバイ／オンを切り替えます(33ページ)。

❹ 入力選択キー

YSP：再生する機器を選択します(45ページ)。

TV/AV：YSP-900のリモコンで外部機器を操作するときに、それぞれの機器を選択します(82ページ)。

❺ 音量モードキー

YSP：音量を抑えてサラウンドを楽しむときに使用します(60ページ)。

❻ 自動設定キー

YSP：自動設定(ビーム調整＋音質調整)するときに使用します(38ページ)。

❼ ビームモードキー/数字(1〜5)キー

YSP：ビームモードの設定を変更します(49ページ、50ページ、56ページ、57ページ)。

TV/AV：数字(1〜5)を入力します。

❽ 音場プログラムキー/数字(7〜10/0)キー

YSP：音場プログラムを選択します(54ページ)。

TV/AV：数字(7〜10/0)を入力します。

⑨ CH(チャンネル)レベルキー
YSP：各チャンネルの音量を調節します(77ページ)。

⑩ カーソル(△/▽/◁/▷)キー/決定キー
メニューを選択するときなどに使用します。

メニュー画面上では、▲/▼/◀/▶ がカーソル(△/▽/◁/▷)キーを表しています。

⑪ テストキー
YSP：テスト音を出力します(76ページ)。

⑫ 音量(+/−)キー
YSP-900の音量を調節します(48ページ)。

⑬ チャンネル(+/−)キー
テレビやビデオのチャンネルを切り替えます(82ページ)。

⑭ 消音キー
YSP-900を消音します(48ページ)。

⑮ テレビ入力切替キー
テレビの入力を切り替えます(82ページ)。

⑯ マイビーム用マイク
マイビームの自動角度調節でテスト音を測定するときに使用します(58ページ)。

⑰ 電源(AV)キー
選択した機器の電源のスタンバイ／オンを切り替えます(82ページ)。

⑱ 電源(TV)キー
テレビの電源のスタンバイ／オンを切り替えます(82ページ)。

⑲ テレビ入力1/2キー
テレビの入力を選択します(82ページ)。

⑳ テレビマクロキー
テレビマクロを設定します(84ページ)。

㉑ 入力モードキー
YSP：本機に入力される音声信号を選択します(78ページ)。

㉒ スリープキー
YSP：スリープタイマーを設定します(62ページ)。

㉓ サラウンドキー/数字(6)キー
YSP：サラウンドモードを選択します(52ページ)。

TV/AV：数字(6)を入力します。

㉔ (●) TruBass(トゥルーベース)キー/数字(12)キー
YSP：TruBassの設定(オン/オフ)を切り替えます(61ページ)。

TV/AV：数字(12)を入力します。

㉕ D音声多重キー/数字(11/+10)キー
YSP：デジタル音声多重の設定を切り替えます(59ページ)。

TV/AV：数字(11/+10)を入力します。

㉖ メニューキー
YSP：テレビ画面にメニューを表示します(34ページ)。

TV/AV：入力選択キーでDVDを選択している場合、DVDメニューを表示します(82ページ)。

㉗ TV/AV/YSPスイッチ
リモコンをTV/AVモードまたはYSPモードに切り替えます(33ページ)。

㉘ 戻るキー
メニューで前の画面に戻るときに使用します(38ページ)。

㉙ テレビ音量(+/−)キー
テレビのボリュームを調節します(82ページ)。

㉚ テレビ消音キー/コードセットキー
テレビを消音します(82ページ)。

リモコンコードを登録する(81ページ)ときや、テレビマクロ機能を使う(84ページ)ときに使用します。

㉛ DVD、ビデオデッキ操作キー
再生、停止など、DVDやビデオの基本的な操作に使用します(82ページ)。

設置する

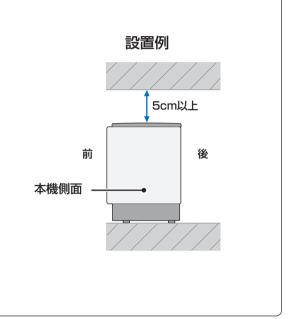
ここでは本機の設置方法について説明します。下記の「設置上のご注意」を参照のうえ、安全な場所に正しく設置してください。なお、ビーム経路上に家具などの障害物があると適切なサラウンド効果が得られない場合がありますので、ビームの経路を考慮した上で設置位置を決定してください。

設置上のご注意

本機の設置には、十分な放熱スペースが必要です。右図のように、本機の上部(または下部)に5cm以上スペースが開くように設置してください。上部または下部にスペースがないラックの場合は、熱がこもらないよう後部に十分な通気スペースを確保してください。ヤマハ推奨のラックは安全性を確認済みですので、安心してご使用いただけます。

本機は9kgの重さがあります。地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように設置してください。

ブラウン管式テレビなど、発熱体の上へは直接設置しないでください。

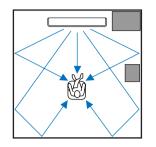
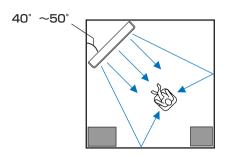
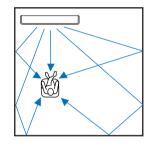
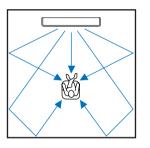
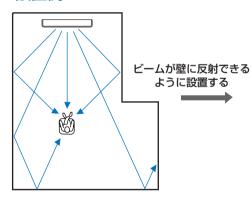
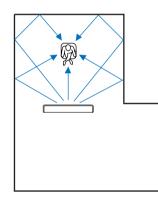
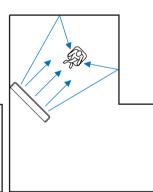
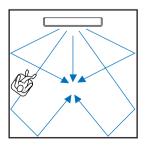
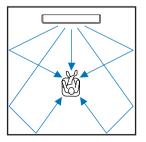
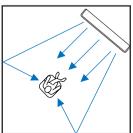
本機は、防磁型設計となっておりますが、万一テレビに色ムラなどが生じるときは、テレビと本機の距離を離してご使用ください。

本機をリスニングルームに設置する

十分なサラウンド効果を得るために、図のように家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください。

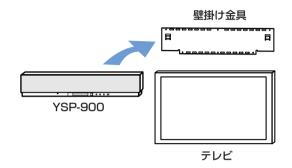
本機を壁と平行に設置する場合には、できるだけ左右の壁の中央に設置し、本機が左右の壁に近づきすぎないようにしてください。

本機を部屋のコーナーに設置する場合には、本機と、隣接する壁との角度が40°～50°の間におさまるように設置してください。

家具などの障害物

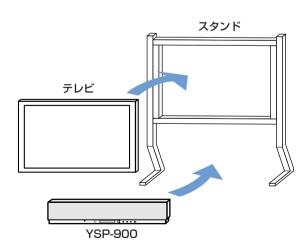
〔壁と平行に設置：
5ビームモードに設定した場合〕

〔コーナーに設置：
ST＋3ビームモードに設定した場合〕

設置例1

できるだけ左右の壁の
中央に設置する

設置例2

設置例3

できるだけ視聴位置の
正面に設置する

壁掛け金具を使用して設置する場合

オプションの壁掛け金具を使用して本機を壁に設置します。

壁掛け金具の壁への取付けや、壁掛け金具と本機の取付けについては、壁掛け金具に付属している取扱説明書をご参照ください。

スタンドを使用して設置する場合

市販のスタンドにテレビを取り付け、本機をテレビの下に設置します。

スタンドの設置やテレビと本機の取付けについては、スタンドに付属している取扱説明書をご参照ください。

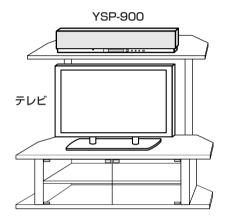
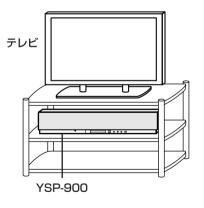
スタンドは本機を設置するのに十分なスペースを持ったものをお買い求めください。

ラックを使用して設置する場合

市販のラックを使用して、本機をテレビの上または下に設置します。

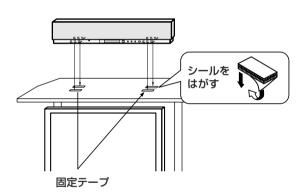
ラックは本機を設置するのに十分なサイズと放熱スペース、本機とテレビを設置するのに十分な強度を持ったものをお買い求めください。

設置例（テレビの上）

設置例（テレビの下）

本機を固定する

下図のように付属の固定テープ(4個)を本機の底面四隅とラック等の上面に貼り、固定してください。

ご注意

- 上面が傾いたラックの上には設置しないでください。本機が落下するとけがの原因になります。
- 固定テープを貼る前に、ラック等の上面をきれいに拭いてください。もし表面が汚れていたり、または濡れていたりすると、テープの接着力が弱まり、本機が落下する原因になります。

接続する

本機は光デジタル端子を2系統、同軸デジタル端子を1系統、アナログ端子を2系統装備しています。それらを利用してテレビやDVDプレーヤー、ビデオデッキ、BSデジタルチューナーやゲーム機などを接続してください。また、サブウーファーを本機に接続すると、よりダイナミックな低音を楽しむことができます。本機とそれぞれの機器の詳しい接続方法については23ページ～29ページをご参照ください。

音声接続

映像接続

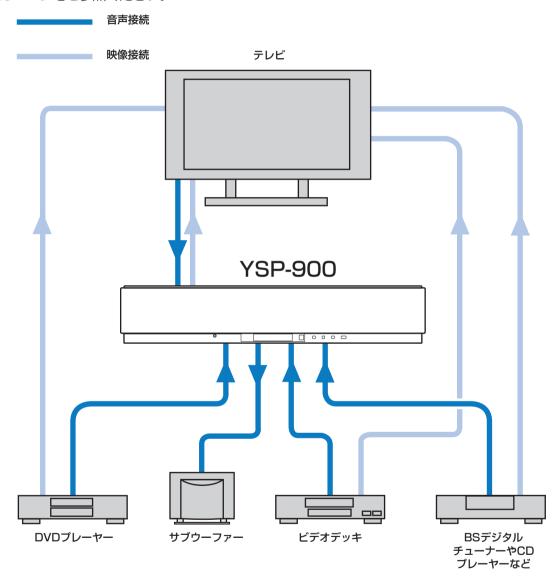
テレビ

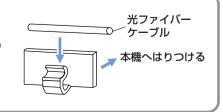
YSP-900

DVDプレーヤー

サブウーファー

ビデオデッキ

BSデジタル
チューナーやCD
プレーヤーなど

光ファイバーケーブルの固定について

光ファイバーケーブルを使って接続した場合、ケーブルの脱落を防ぐため、付属のケーブル押さえで固定します。
ケーブル押さえの口が開いている方を上にして、本体背面の適当な位置に取り付け、ケーブルを固定してください。

テレビを接続する

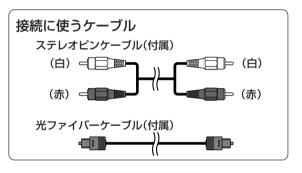
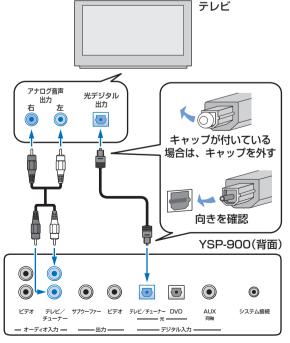
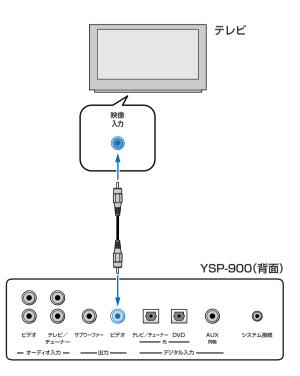
音声接続（デジタル・アナログ）

テレビのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力（テレビ/チューナー）端子を接続します。テレビに光デジタル接続端子がある場合は、アナログ接続に加えて、テレビの光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力（テレビ/チューナー）端子を接続してください。デジタル放送受信時に、デジタル音声信号を本機に入力することができます。

映像接続（メニュー表示用）

テレビの映像入力端子と本機の出力（ビデオ）端子を付属のメニュー表示用ビデオケーブルで接続します。映像用の接続をすることにより、テレビ画面にメニューを表示し（34ページ）、音量や入力選択されている機器名などの情報を見たり、メニューを使って簡単にリスニング環境を設定したりできるようになります（39ページ）。

ヒント

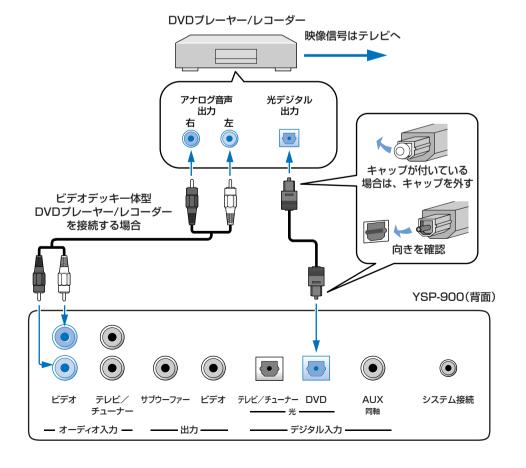
・デジタル放送対応のテレビをご使用の場合、デジタル出力のAACが有効になっていることをご確認ください（テレビ側の設定）。詳しくは、ご使用のテレビに付属している取扱説明書をご参照ください。
・地上デジタル放送は、2003年12月から一部の地域で開始されています。従来の地上アナログ放送は2011年7月に、BSアナログ放送は2011年までに終了することが、国の方針として決定されています。

DVDプレーヤー/レコーダーを接続する

DVDプレーヤー/レコーダーの光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力(DVD)端子を接続します。ビデオデッキ一体型DVDプレーヤー/レコーダーと接続する場合は、デジタル接続に加えて、DVDプレーヤー/レコーダーのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(ビデオ)端子を接続してください。

DVDプレーヤー/レコーダーに光デジタル出力端子がない場合は同軸デジタル接続をしてください(28ページ)。

ヒント

DVDプレーヤー/レコーダーのデジタル音声出力で、ドルビーデジタル、DTS(またはビットストリーム)が有効になっていることをご確認ください(DVDプレーヤー/レコーダー側の設定)。詳しくは、ご使用のDVDプレーヤー/レコーダーに付属している取扱説明書をご参照ください。

DVDプレーヤー/レコーダー
映像信号はテレビへ
アナログ音声出力
右
左
光デジタル出力
キャップが付いている場合は、キャップを外す
向きを確認
ビデオデッキ一体型DVDプレーヤー/レコーダーを接続する場合
YSP-900(背面)
ビデオ
テレビ/チューナー
サブウーファー
ビデオ
テレビ/チューナー
DVD
光
AUX
同軸
システム接続
オーディオ入力
出力
デジタル入力

ビデオデッキを接続する

ビデオデッキのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(ビデオ)端子を接続します。

右チャンネルと左チャンネルをよく確認して正しく接続してください。

ビデオデッキ

映像信号はテレビへ

アナログ音声
出力
右　左

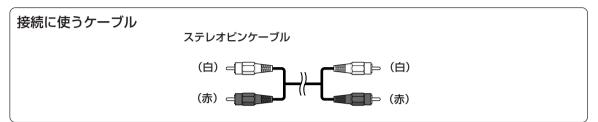
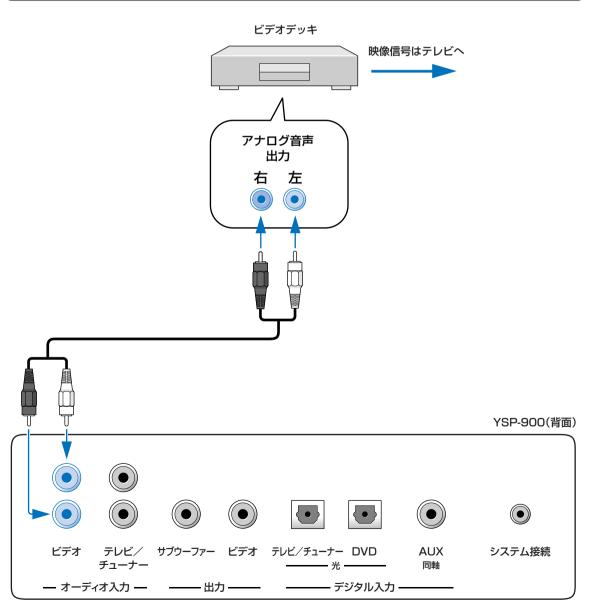
YSP-900(背面)

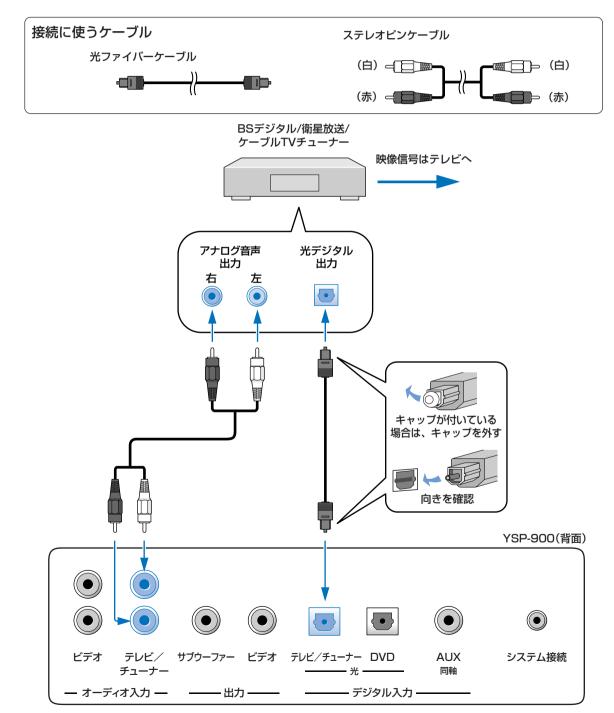
ビデオ
テレビ／
チューナー
— オーディオ入力 —

サブウーファー
ビデオ
—— 出力 ——

テレビ／チューナー　DVD
—— 光 ——
AUX
同軸
—— デジタル入力 ——

システム接続

本機について
設置・接続する
準備する
設定する
基本操作
応用操作
付録

BSデジタル/衛星放送/ケーブルTVチューナーを接続する

デジタルテレビ/衛星放送/ケーブルTVチューナーやケーブルテレビの光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力(テレビ/チューナー)端子を接続します。デジタル接続に加えて、デジタルテレビ/衛星放送チューナーやケーブルテレビのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(テレビ/チューナー)端子を接続してください。

地上アナログ放送非対応のチューナーをご使用の場合

地上アナログ放送を受信しないチューナーが接続されている場合は、デジタル接続に加えて、本機のオーディオ入力(テレビ/チューナー)端子とテレビのアナログ音声出力端子を接続してください。

ご利用の際に地上アナログ放送の音声を出力したいときは、チューナーの電源をオフにしてください。または、チューナーの入力信号モードを「ANALOG」に設定してください(78ページ)。

地上デジタルチューナー

映像信号はテレビへ

光デジタル
出力

アナログ接続：
テレビの音声
出力端子へ

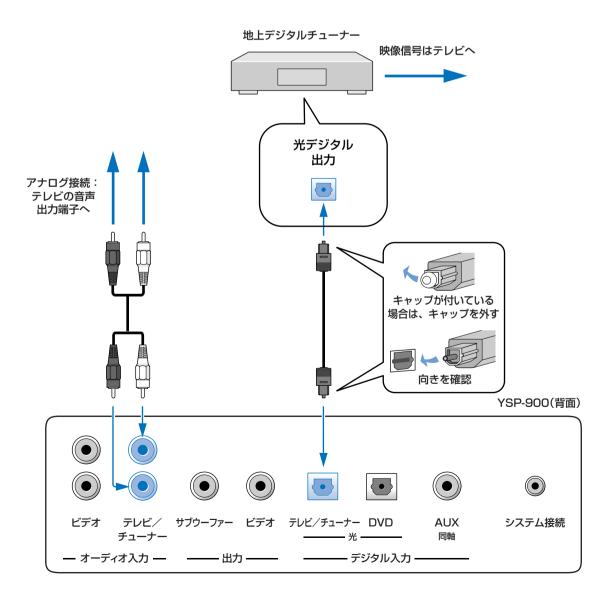
キャップが付いている
場合は、キャップを外す

向きを確認

YSP-900(背面)

ビデオ　テレビ／チューナー　サブウーファー　ビデオ　テレビ／チューナー　DVD　AUX 同軸　システム接続

光

— オーディオ入力 —　——— 出力 ———　——— デジタル入力 ———

その他の機器を接続する

その他の機器の同軸デジタル出力端子と本機の同軸デジタル入力（AUX）端子を接続します。

同軸デジタル接続に対応した機器を接続したいときや、DVDプレーヤー/レコーダーを同軸デジタル接続するときにご利用ください。

DVDプレーヤー/レコーダーを接続した場合は、入力端子設定を変更すると便利です（73ページ）。

接続に使うケーブル

デジタル音声ピンケーブル（付属）

（橙）　（橙）

CDプレーヤーなど

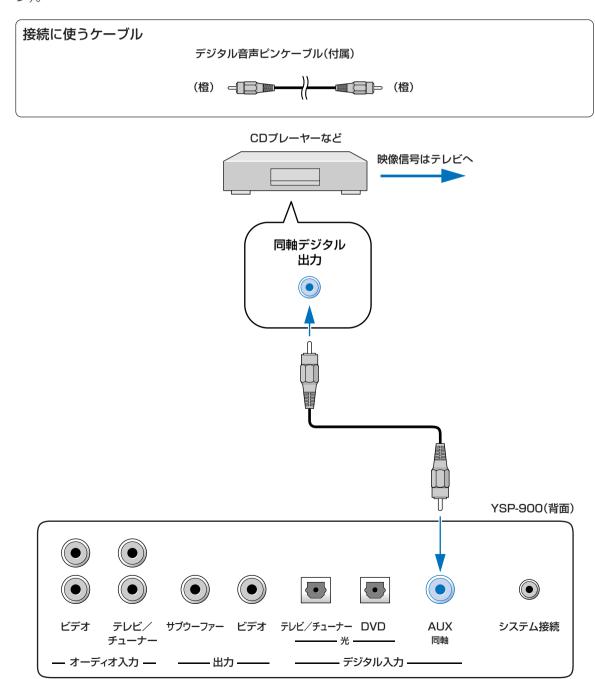
映像信号はテレビへ

同軸デジタル出力

YSP-900（背面）

ビデオ　テレビ／チューナー　サブウーファー　ビデオ　テレビ／チューナー　DVD　AUX　システム接続

光　同軸

オーディオ入力　出力　デジタル入力

サブウーファーを接続する

サブウーファーのモノラル入力端子と本機の出力(サブウーファー)端子を接続します。

この接続のみでは、サブウーファーからは音が出力されません。サブウーファーから音を出力するには、サブウーファーの電源をオンにした状態で自動設定を行う(36ページ)か、詳細設定の「1「バス出力」を設定する」(70ページ)で「サブウーファー」を選択してください。

ヒント

システム接続端子があるヤマハ製サブウーファーを接続する場合は、サブウーファー用ピンケーブルでの接続に加えて、システム接続ケーブルで本機のシステム接続端子に接続します。システム接続をすることによって、本機の電源のオン/スタンバイとサブウーファーの電源のオン/スタンバイを連動させることができます。

接続に使うケーブル

サブウーファー用ピンケーブル

〈システム接続端子があるヤマハ製サブウーファーの場合〉
システム接続ケーブル(サブウーファーに付属)

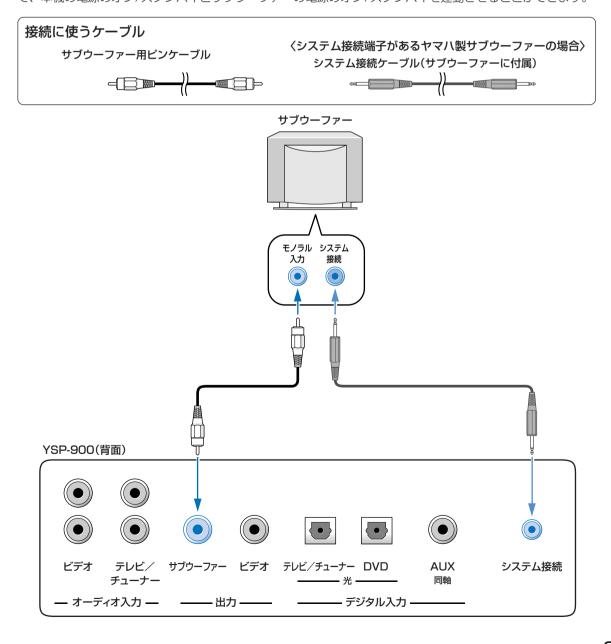
サブウーファー

モノラル入力　システム接続

YSP-900(背面)

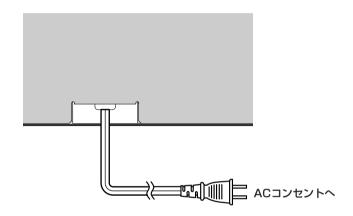
ビデオ　テレビ/チューナー　サブウーファー　ビデオ　テレビ/チューナー　DVD　AUX 同軸　システム接続

光

オーディオ入力　出力　デジタル入力

電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、本機の電源コードを家庭用AC100VのACコンセントに接続します。

ご注意

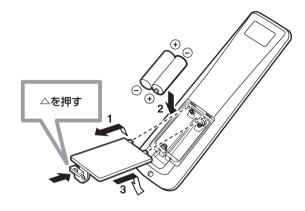
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 本機を移動するとき、本機の手入れをするとき、接続をやり直すときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

リモコンの準備をする

リモコンに電池を入れる

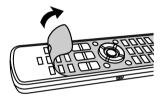
1　バッテリーカバーの△マークを押しながら、カバーをリモコンから取り外す

2　付属の単3乾電池(2本)を、電池ケースに挿入する

電池の向き(＋/－極性)を正しく挿入してください。

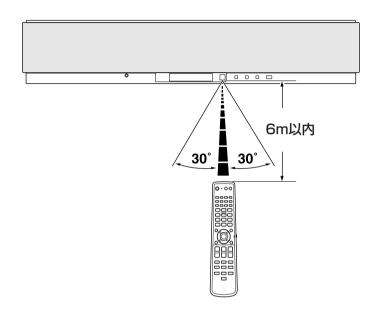
3　バッテリーカバーをリモコンに装着する

ヒント

リモコンの外装保護シートは、はがしてご利用ください。

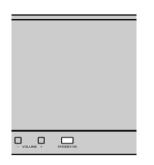
ご注意

- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性質の異なる場合がありますのでご注意ください。
- 使い切った電池はただちにリモコンから取り出してください。リモコンに挿入したままにしておくと、破裂や液漏れの原因となります。
- 使い切った電池は地域の条例または取り決めに従って廃棄してください。
- 電池が液漏れしている場合は、ただちに電池をリモコンから取り出し、廃棄してください。その際、肌や衣服が漏れているバッテリー液にふれることのないよう十分ご注意ください。
  リモコンにバッテリー液が付着している場合はきれいに拭き取ってから新しい電池を挿入してください。
- リモコンから電池を取り出したら**2分以内に**新しい電池を挿入してください。これ以上の時間が経過すると、リモコンの設定内容が消去されます。また、電池が切れてから2分に満たない場合でも、電池の交換中にリモコンのキーを押すと、設定が消えてしまうことがありますので、ご注意ください。

リモコンの操作範囲

リモコンで本機を操作する際は、リモコンの赤外線送信部を本体のリモコン受光窓(13ページ)に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から6m以内で正面から左右に30°以内です。

ご注意

・ リモコンに水や飲み物などをこぼさないようご注意ください。
・ リモコンを落としたり、リモコンに強い衝撃を与えたりしないようご注意ください。
・ リモコンを以下のような場所に放置しないでください。
  − 気温・湿度が高い場所(ヒーターの近くや風呂場など)
  − 極端に気温が低い場所
  − ほこりっぽい場所
・ リモコン受光窓には直射日光や蛍光灯などの強い光が当たらないようにしてください。
・ リモコンの電池が消耗すると、リモコンで本機を操作できる距離が極端に短くなります。このような場合、早めに新しい電池と交換してください。

設定・操作の準備をする

電源をオン/スタンバイにする

本体のSTANDBY/ONキーまたはリモコンの電源キーを押す

押すたびに電源のオン/スタンバイが切り替わります。

または

本体　　リモコン

リモコンの基本的な使い方

本機のリモコンは、リモコン右側のTV/AV/YSPスイッチをスライドさせることによって機能が切り替わります。

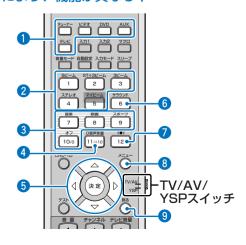
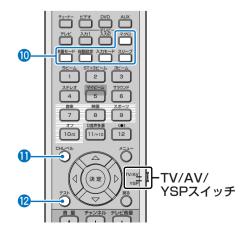
下図(左)で示された❶～❾のキーは、TV/AV/YSPスイッチがTV/AV側またはYSP側のどちらに設定されているかにより、機能が異なります。また、下図(右)で示された❿～⓬のキーはYSP側に設定されているときにのみ操作できます。それぞれのキーの機能については「リモコン」(16ページ)をご参照ください。

ヒント

・通常、本機を操作するためにはYSP側にスライドさせてご使用ください。TV/AV側にスライドさせたときの❶～❾のキーの機能については「設定した機器を操作する」(82ページ)をご参照ください。

・下図で示された❶～⓬以外のキーは、TV/AV側・YSP側にかかわらず同様に機能するキー、またはTV/AV側に設定されているときにのみ操作可能なキーです。❶～⓬以外のキーの機能については「リモコン」(16ページ)または「設定した機器を操作する」(82ページ)をご参照ください。

TV/AV側またはYSP側のどちらに設定されているかにより、機能が異なるキー

YSP側に設定されているときにのみ操作可能なキー

テレビ画面にメニューを表示する

本機の出力（ビデオ）端子とテレビの映像入力端子を接続することにより（23ページ）、テレビ画面で本機のメニューを見ることができます。

メニューでは、音量や入力選択されている機器名など、さまざまな情報を見たり、メニューをテレビ画面上で操作して本機の設定を行ったりできます。

ヒント

詳細設定の「メニューの表示を設定する（メニュー画面設定）」（75ページ）で、メニュー表示に関する設定を変更することができます。

1 テレビの電源を入れる

2 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

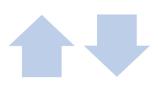
3 テレビの映像入力切替を操作して本機の映像に切り替える

テレビ画面に以下のようなメニューが表示されることを確認します。
メニューが表示されない場合は、メニュー表示用ビデオケーブルが正しく接続されているか確認してください（23ページ）。

設定の流れ

本機をリスニングルームの環境に合うように設定します。

自動設定(インテリビーム)を行います。

「本機を自動設定する(インテリビーム)」(36ページ)

エラーが表示されたら

エラーメッセージを確認して問題を解決します。

「エラーメッセージとエラー後の操作について」(41ページ)

音声を再生したり、ビームモードやシネマDSPの設定を変更します。

「入力音声を再生する～」(45ページ～)

より高精度なサラウンド
サウンドを追求したい方は

詳細設定を行います。

「本機を詳細に設定する」(63ページ)

ヒント

- **反射ビームの音がはっきり聞こえないチャンネルがある場合は**
「設置視聴環境の設定により、ビームを調節する(設置視聴環境)」(66ページ)または「ビームの水平角度・経路長・焦点距離・高音レベルを個別に設定する(ビーム調整)」(67ページ)を行います。
- **ビーム経路上にカーテンなど吸音性の高いものがある場合は**
「4「高音レベル」を設定する」(68ページ)を行います。

本機を自動設定する(インテリビーム)

リスニングルームの形状と大きさ、本機が設置されている場所などは、ご家庭によってさまざまです。本機を最適な視聴空間でご利用いただくためには、最初に各チャンネルの設定を調節する必要があります。

本機には、各チャンネルの設定を自動的に調節する機能として、「ビーム調整」および「音質調整」が搭載されています。この2つの機能を合わせてインテリビームといいます。「ビーム調整」とは、リスニングルームの形状や大きさなどに応じて、各チャンネルのビーム角度を最適な設定値に調節する機能です。「音質調整」とは、リスニングルームの音響特性などを測定し、各チャンネルの音色を最適な設定値に調節する機能です。

本機では、付属のマイク(オプティマイザーマイク)を使用して、この2種類の設定を自動的に調節することができます。

ヒント

・自動設定されたデータはメモリーに保存することができます(42ページ)。リスニングルームの状況に合わせてそれぞれのデータを保存し、ご使用の際に設定を切り替えると便利です。

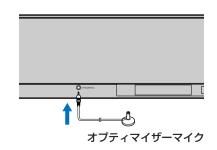
ご注意

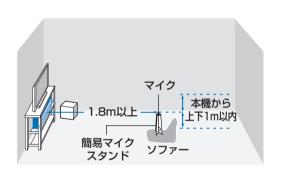
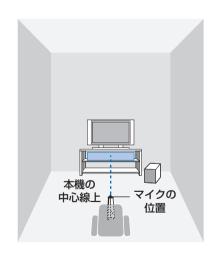
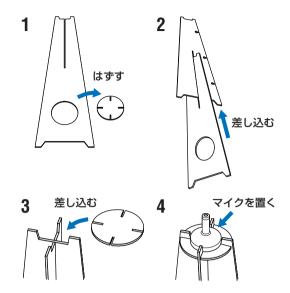
- お部屋の環境がリスニングルームの条件(10ページ)を満たしていない場合は、測定が正しく行われないことがあります。その場合は「詳細設定」(63ページ)を行ってください。
- オプティマイザーマイクを接続する際は、延長ケーブルを使用しないでください。測定が正しく行われないことがあります。
- 自動設定機能を使用していないときは、オプティマイザーマイクをOPTIMIZER MIC端子から外して保管してください。
- オプティマイザーマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所やAV機器の上など高温になる場所には置かないでください。
- オプティマイザーマイクを本体に接続した状態で、本体を手前に倒さないでください。

オプティマイザーマイクを設置する

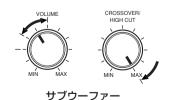
本機前面のOPTIMIZER MIC端子に付属のオプティマイザーマイクを接続し、視聴位置に設置します。

1 本機の電源をオフ(スタンバイ)にする

2 オプティマイザーマイクを本体のOPTIMIZER MIC端子に接続する

3 オプティマイザーマイクを実際に視聴する位置に水平に設置する

マイクは本機から1.8m以上離し、本機の中心線上（本機正面）に設置してください。また、本機から上下1m以内の位置に設置してください。
付属の簡易マイクスタンドなどの台を利用して、なるべく視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。
ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので、障害物ではありません。

簡易マイクスタンドの組立て方法

ヒント

- オプティマイザーマイクを本機から1.8m以内に設置した場合、マイクを本機の中心線上に設置していない場合、マイクと本機の中心線上との高さの差異が1m以上の場合は、測定エラーになることがあります。この場合はマイクを正しい場所に設置しなおしてから、再度測定してください。
- オプティマイザーマイクの位置周辺で視聴できない環境下では、サラウンド効果が薄れることがあります。このような場合、詳細設定でお好みのビーム角度に設定することができます（66ページ）。
- サブウーファーを接続している場合は、電源を入れて、音量を半分または半分よりやや小さめ（下図（左）の位置）に設定してください。クロスオーバー／ハイカット周波数の調節機能がある場合は、クロスオーバー／ハイカット周波数を最大（下図（右）の位置）に設定してください。

サブウーファー

自動的に測定・設定する

自動設定には「ビーム調整＋音質調整」、「ビーム調整」、「音質調整」の3つの選択項目があります。

選択項目について

「ビーム調整＋音質調整」

購入後、初めて設定を行う場合に選択します。測定開始から終了まで約3分です。
「ビーム調整＋音質調整」を行いたい場合、手順3でメニューキーの代わりに自動設定キーを2秒以上押すと、手順4および手順5の操作を省略できます。

「ビーム調整」

ご利用の環境に合わせてビーム角度を設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約1分です。

「音質調整」

音質、音量バランス、音が聞こえるタイミングを設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約2分です。
「音質調整」はビーム角度を設定したあとで実行してください。ビーム角度が正しく設定されていない場合は、正常に測定できません。カーテンの開閉後、またはビーム角度を「詳細設定」で調節したあとなどにご使用ください。

ご注意

- 測定中は大きなテスト音が出力されます。小さなお子様がお部屋にいる場合やお部屋に入ってくる可能性がある場合は、自動設定機能を使用しないでください。聴覚障害などの原因となる場合があります。
- 測定中はお部屋の外に出てください。お部屋の中にいると、ビーム経路に重なってしまったり、マイクが声や音を拾ってしまったりして、最適な設定が行われない場合があります。
- 壁にカーテンやブラインドなどがかかっているお部屋では、ビーム設定が正確に行われないことがあります。そのようなお部屋で測定する場合、以下の手順で設定することをおすすめします。
  ①カーテンやブラインドを開ける ②「ビーム調整」を行う ③カーテンやブラインドを閉める ④「音質調整」を行う
- エアコンなど騒音を発生する機器がある場合は、電源を切ってください。

ヒント

- 設定の途中で前の画面に戻って選択し直したいときは、戻るキーを押してください。
- メニューを操作中にカーソルキーの操作ができなくなった場合は、TV/AV/YSPスイッチがTV/AV側に設定されていないか確認してください。メニューを操作するには、YSP側にスライドさせてください。

1 電源(⏻/I)キーを押して、本機の電源をオンにする

サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの電源がオンになっていることを確認してください。

2 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

3 メニューキーを押す

テレビ画面にメニューが表示されます。
メニュー下部の表示は操作方法を表しています。

メニュー
→ ・メモリー
・自動設定
・詳細設定
【▲】／【▼】：選択
［決定］：決定

ヒント

「ビーム調整＋音質調整」（38ページ）を行いたい場合、メニューキーの代わりに自動設定キーを2秒以上押すと、以下のような画面が表示されます。その場合、手順4および手順5の操作を省略し、手順6へお進みください。

自動設定　確認・準備
マイクを接続してください
マイクを本体の正面で最低1.8m離し、
正しい高さに設置してください
測定にはおよそ3分かかります
決定を押したら部屋から出てください
［決定］：開始　［戻る］：中止

4 △／▽キーを押して「自動設定」を選択し、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

・自動設定
→ 1）ビーム調整+音質調整
2）ビーム調整
3）音質調整
【▲】／【▼】：選択
［決定］：決定

5 △／▽キーを押して、「ビーム調整＋音質調整」、「ビーム調整」、「音質調整」のいずれかを選択し（38ページ）、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

自動設定　確認・準備
マイクを接続してください
マイクを本体の正面で最低1.8m離し、
正しい高さに設置してください
測定にはおよそ3分かかります
決定を押したら部屋から出てください
［決定］：開始　［戻る］：中止

6 マイクの位置について、以下のことを確認する

・本機の正面に設置されていますか。
・本機から上下1m以内の高さに設置されていますか。
・本機から1.8m以上離れた場所に設置されていますか。

7 決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。
測定中はお部屋の外に出てください。
測定開始から終了まで、最長で約3分かかります。

自動設定開始
10秒後に測定を開始します
部屋から出てください
＊＊＊－－－－－－－
［戻る］：中止

ヒント

測定中に自動設定を中止したい場合は、戻るキーを押してください。

測定中の項目に従って、画面が自動的に切り替わります。エラー音（ブザー音）が出力された場合、画面のエラーメッセージを確認し、「エラーメッセージとエラー後の操作について」（41ページ）を参照してください。

測定が終了すると終了音（チャイム音）が出力され、以下のような画面が表示されます。手順5で「ビーム調整」を選択した場合、サブウーファーの測定結果は表示されません。

〈表示例1〉

測定結果
測定が終了しました
ビームモード ：5ビーム
サブウーファー：有
［決定］：設定する
［戻る］：設定しない

〈表示例2〉

測定結果
測定が終了しました
環境チェック・・・［NG］
ビームモード ：5ビーム
サブウーファー：有
［決定］：設定する
［戻る］：設定しない

ヒント

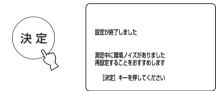
・〈表示例2〉のように「環境チェック・・・［NG］」と表示された場合は、再度測定することをおすすめします。詳しくは、手順8をご参照ください。
・サブウーファーの電源がオンになっているにもかかわらず、「サブウーファー：無」と表示された場合は、サブウーファーの音量を上げてから、設定をやり直してください。
・測定結果の画面に「ビームモード：5ビーム」と表示された場合でも、お部屋の状況によっては、フロントビームとサラウンドビームが同じ角度に設定されることがあります。

8 設定を有効にする場合は決定キーを、無効にする場合は戻るキーを押す

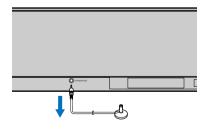
手順7で〈表示例1〉のような画面が表示された場合、決定キーを押すと以下の画面が表示され、2秒後にメニューが消えます。

設定が終了しました
マイクを外してください

戻るキーを押して、設定を無効にすると初期画面に戻ります。

手順7で〈表示例2〉のような画面が表示された場合、決定キーを押すと以下の画面が表示されます。

この場合、41ページの「エラーE-1」をご参照ください。再度測定する場合は、決定キーを押してメニューが消えたことを確認したら、手順3から操作し直してください。

9 マイクを外す

設定完了です。マイクは大切に保管してください。

測定結果は本機に記憶され、電源を切っても初期設定値には戻りません。ただし、自動設定をやり直したり、詳細設定で設定値を変更した場合は、設定結果が上書きされます。

ヒント

複数の設定結果をメモリーに保存したり、そのデータをお部屋の状況に応じて呼び出したい場合は「メモリー機能を使用する」（42ページ）をご参照ください。

エラーメッセージとエラー後の操作について

テレビ画面にエラーメッセージが表示された場合は、原因を確認し問題を解決してください。
その後、「エラー E-1」の場合は、決定キーを押して再度測定してください。
その他のエラーの場合は、戻るキーを押してください。手順3で自動設定キーを押して測定を開始した場合、メニュー画面が消えたことを確認し、手順3から操作し直してください（39ページ）。
メニューキーを押して測定を開始した場合、手順3の画面（メニューの初期画面）が表示されたことを確認し、手順4から操作し直してください（39ページ）。
エラーが解決できない場合は、詳細設定を行ってください（63ページ）。

エラー　E-1: 環境ノイズが大きすぎます

原因	対策
騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、それらの機器から離してください。
	周囲が静かな時間帯にやりなおしてください。

エラー　E-2: マイクの接続を確認してください

原因	対策
オプティマイザーマイクが接続されていません。	本機前面のOPTIMIZER MIC端子にオプティマイザーマイクを接続してください。

エラー　E-3: 測定中に操作されました

原因	対策
測定中に音量の調節、消音などの操作が行われました。	測定中は本機を操作しないでください。

エラー　E-4: マイクを本体の正面に設置してください

原因	対策
オプティマイザーマイクが本機正面の延長線上に置かれていません。	オプティマイザーマイクを本機正面の延長線上に設置してください。

エラー　E-5: マイクを本体から最低1.8m離して設置してください

原因	対策
オプティマイザーマイクが本機から1.8m未満の場所に設置されています。	オプティマイザーマイクを本機から1.8m以上離して設置してください。

エラー　E-6: マイクから十分な入力がありません　マイクの接続・設置位置を確認してください

原因	対策
テスト音が取得できません。	オプティマイザーマイクを正しく接続、設置してください。

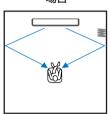
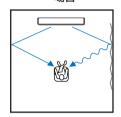
エラー　E-7: エラーです　再度、実行してください

原因	対策
本機内部にエラーが発生しました。	再度測定してください。

メモリー機能を使用する

メモリーの便利な使い方

リスニングルームの状況に応じて設定を切り替えたい場合、測定結果をメモリーに保存しておくと便利です。測定結果のデータは最大3つまで保存することができます。例えば、ビーム経路上にカーテンがある場合などは、カーテンの開閉によってビームの効果が変化します。

カーテンが開いている場合

カーテンが閉じている場合

このような場合、カーテンが開いている状態で「ビーム調整＋音質調整」を行い、測定結果を「メモリー1」に保存します。次にカーテンが閉じている状態で「音質調整」を行い、測定結果を「メモリー2」に保存します。このようにすると、ご使用の際にリスニングルームの状況に応じて設定を切り替えることができ、最適な環境でサラウンドサウンドがお楽しみいただけます。

設定結果をメモリーに保存する

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 メニューキーを押す

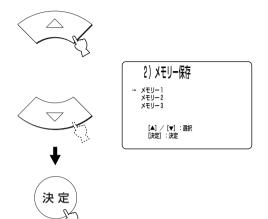
テレビ画面にメニューが表示されます。

3 矢印が「メモリー」にあることを確認して、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

4 △／▽キーを押して「メモリー保存」を選択し、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

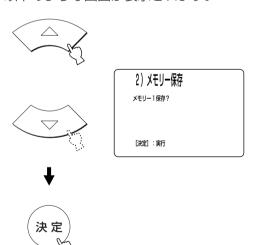
5 △／▽キーを押して「メモリー1」「メモリー2」「メモリー3」のいずれかを選択し、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

6 もう一度決定キーを押す

選択した項目に測定結果が登録されます。

2) メモリー保存

メモリー1保存中

登録されると以下の初期画面に戻ります。

7 メニューキーを押す

テレビ画面からメニューが消えます。

保存したメモリーを呼び出す

設定したデータをメモリーに保存した場合（42ページ）、そのデータを呼び出すことができます。ご使用の際のリスニングルームの状況にあったメモリーを呼び出して、最適な環境でサラウンドサウンドをお楽しみください。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 メニューキーを押す

テレビ画面にメニューが表示されます。

3 矢印が「メモリー」にあることを確認して、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

4 矢印が「メモリー呼び出し」にあることを確認して、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

5 △／▽キーを押して呼び出したい項目を選択し、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

決 定

6 もう一度決定キーを押す

選択した項目のメモリーを呼び出します。

呼び出しが完了すると初期画面に戻ります。

7 メニューキーを押す

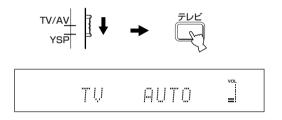
テレビ画面からメニューが消えます。

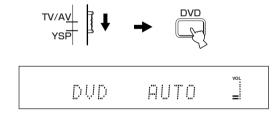
入力音声を再生する

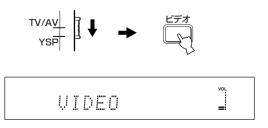
再生したい機器を切り替える

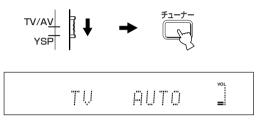
入力選択キーを押すと、本機に接続したそれぞれの機器の入力が選択され、音声を再生することができます。

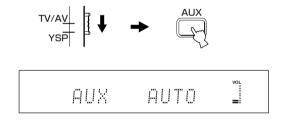
テレビを再生したい場合は

TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせてから、テレビキーを押します。

DVDプレーヤーを再生したい場合は

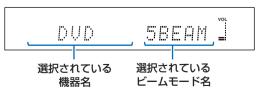
TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせてから、DVDキーを押します。

ビデオデッキを再生したい場合は

TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせてから、ビデオキーを押します。

テレビチューナーを再生したい場合は

TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせてから、チューナーキーを押します。

AUX端子に接続した機器を再生したい場合は

TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせてから、AUXキーを押します。

それぞれのキーを押してから数秒経つと、フロントパネルディスプレイに、選択されている機器名とビームモード名が表示されます。

表示例

本機について
設置・接続する
準備する
設定する
基本操作
応用操作
付録

テレビやDVDを楽しむ

入力音声を再生する例として、ここではテレビとDVDプレーヤーの再生方法を紹介します。
テレビやDVDプレーヤーの機能については、それぞれに付属している取扱説明書をご参照ください。

ヒント

- DVDを再生する場合、DVDプレーヤーの音声設定を5.1チャンネルモードにすると、より豊かなサラウンドサウンドをお楽しみいただけます。
- リモコンコードを設定している場合は、テレビやDVDプレーヤーを本機のリモコンで操作することができます（82ページ）。

テレビを再生する

1 テレビのリモコンで、見たいチャンネルを選ぶ

2 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

3 本機のリモコンのテレビキーを押す

テレビの再生モードに切り替わります。

4 テレビのスピーカーから音声が聞こえる場合は、聞こえなくなるまでテレビのスピーカーの音量を下げる

DVDプレーヤーを再生する

1 テレビの映像入力切替を操作して、DVDプレーヤーの映像に切り替える

2 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

3 本機のリモコンのDVDキーを押す

DVDの再生モードに切り替わります。

4 DVDプレーヤーで、ディスクを再生する

デジタル信号の入力を確認する

テレビやDVDプレーヤーと本機を光ファイバーケーブルまたはデジタル音声ピンケーブルで接続している場合、テレビやDVDプレーヤーのデジタル信号が本機に入力されているか確認できます。

テレビの場合

1 「テレビを再生する」(46ページ)を実行する

2 ST+3ビームキーを押す

テレビのBS/地上デジタル放送の信号を再生しているときは、フロントパネルディスプレイに以下のインジケーターが点灯します。

AAC

ヒント

AACインジケーターが点灯しない場合、デジタル信号は入力されていません。その場合、以下の点についてご確認ください。

- 本機とテレビはデジタル接続されていますか(23ページ)。
- テレビ側のデジタル出力設定はオンになっていますか。
- テレビ側のビットストリーム出力設定はオンになっていますか。
- テレビ側のAAC出力設定はオンまたは自動(AUTO)になっていますか。

インジケーター表示については「内蔵デコーダーとインジケーター表示(51ページ)をご参照ください。

DVDプレーヤーの場合

1 「DVDプレーヤーを再生する」(46ページ)を実行する

2 ST+3ビームキーを押す

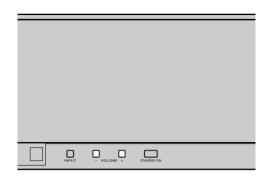
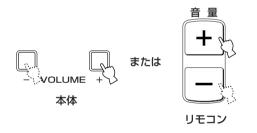
DVDソフトの5.1chサラウンドデジタル信号を再生しているときは、フロントパネルディスプレイに以下のインジケーターが点灯します。

DIGITAL
または
dts

ヒント

- DIGITAL または dts インジケーターが点灯しない場合、デジタル信号は入力されていません。その場合、以下の点についてご確認ください。
  - 本機とDVDプレーヤーはデジタル接続されていますか(24ページ、28ページ)。
  - DVDプレーヤー側のデジタル出力設定はオンになっていますか。
  - DVDプレーヤー側のビットストリーム出力設定またはDTS出力設定はオンになっていますか。

  インジケーター表示については「内蔵デコーダーとインジケーター表示(51ページ)をご参照ください。
- サラウンド確認用DVD(付属)を使用すると、本機にデジタル信号が入力されているか確認するのに便利です。

音量を調節する

音量を上げるには本体のVOLUME＋キーまたはリモコンの音量＋キー、下げるには本体のVOLUME－キーまたはリモコンの音量－キーを押す

VOLUME（音量）調節範囲：
MIN（最小）、01～99、MAX（最大）

ヒント

音量を45程度まで上げても音声が聞こえない場合は、「故障かな？と思ったら」（87ページ）をご参照ください。

消音する

消音キーを押す

フロントパネルディスプレイに「AUDIO MUTE ON」と表示され、VOLUMEインジケーターが点滅します。

消音を解除してもとの音量に戻すには

消音キーを再度押す、または音量＋/－キーを押します。

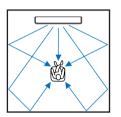
ヒント

「消音のレベルを設定する」（71ページ）で、消音キーを押したときに完全に消音するか、20dB下げるかを選択することができます。

サラウンド再生を楽しむ

ビームモードキーを使って、ビームモードを変更することにより、最大5.1チャンネルのサラウンド再生を楽しむことができます。「5ビーム」、「ST（ステレオ）+3ビーム」、「3ビーム」の3つのビームモードを、お好みで切り替えてください。

ヒント

・詳細設定の「1 設置視聴環境1/3の「本体設置位置」を設定する」（66ページ）で「コーナー置き」を選択した場合は、「5ビーム」および「3ビーム」は選択できません。この場合、5ビームキーまたは3ビームキーを押すと、フロントパネルディスプレイに「SP Pos. Corner!」と表示されます。
・「5ビーム」、「ST（ステレオ）+3ビーム」、「3ビーム」の3つのビームモードでは、入力ソースがステレオ（2チャンネル）の場合でも、サラウンドで再生されます。その場合、サラウンドモードを切り替えることができます。詳しくは52ページをご参照ください。

5ビームで再生する

フロント左/右、センター、サラウンド左/右の5チャンネルから、ビーム化された音声を出力します。

ビーム経路とビームが反射する壁が確保されている場合には、最大のサラウンド効果が得られます。

マルチチャンネルで記録されている映画DVDの鑑賞や、2チャンネルソースをマルチチャンネルで再生したいときなど、サラウンド効果を存分に楽しみたい場合に最適です。

フロント左/右チャンネルは、壁に向けて出力されます。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 5ビームキーを押す

フロントパネルディスプレイに「5 BEAM」と表示されます。

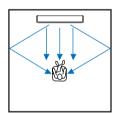
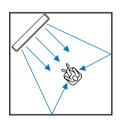
5 BEAM　VOL

ST(ステレオ)+3ビームで再生する

ビーム化しない通常のフロント左/右チャンネルの音声に、ビーム化したセンターチャンネルとサラウンド左/右チャンネルの音声を加え、5チャンネルで音声を出力します。

ライブDVDなどの鑑賞に最適です。中央付近からはボーカルの声や楽器の音が、横からは会場の反射音が聞こえ、まるでステージを前にしているような臨場感を楽しむことができます。

サラウンド左の音声信号はフロント左チャンネルのビームを使って出力され、サラウンド右の音声信号はフロント右チャンネルのビームを使って出力されます。

フロント左/右チャンネルは、直接視聴位置に向けて出力されます。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 ST+3ビームキーを押す

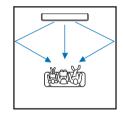
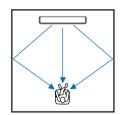
フロントパネルディスプレイに「STEREO+3 BEAM」と表示されます。

STEREO+3 BEAM VOL

3ビームで再生する

フロント左/右、センターの3チャンネルから音声を出力します。

フロントビームだけを出力することによって音のスイートスポットが広がるため、広い範囲で良好なサラウンド感を得ることができます。ご家族で一緒に映画を見るときや、後方からのビーム経路が無い場合(視聴位置が後方の壁に近い場合など)に最適です。

マルチチャンネルソースの場合、サラウンド左/右チャンネルの音声はフロント左/右チャンネルにそれぞれミックスしてフロント左/右チャンネルのビームで出力します。これにセンターチャンネルのビームを加え、3つのビームで音声を出力します。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 3ビームキーを押す

フロントパネルディスプレイに「3 BEAM」と表示されます。

3 BEAM VOL

ヒント

詳細設定で「フロント左/右チャンネルの位置を調節する(Lch/Rch位置調整)」(69ページ)を行うと、よりつながりのあるサラウンド感が得られます。

内蔵デコーダーとインジケーター表示

本機では、内蔵したデコーダーにより、以下のようなさまざまなソースを楽しむことができます。

入力している音声信号は自動的に選択され、以下のようにフロントパネルディスプレイのインジケーターが点灯します。

状況	インジケーター表示
BS/CS/地上デジタル放送を入力している	AAC
BS/CS/地上デジタルまたはHDDレコーダーの音声多重放送を入力している	DUAL
PCM信号を入力している	PCM
DTSデジタル信号を入力している、またはDTS Neo:6を選択している	dts
ドルビーデジタル信号を入力している	DD DIGITAL
ドルビープロロジックを選択している	DD PL
ドルビープロロジックII を選択している	DD PL II

ヒント

・「入力信号のデコード方法を設定する」(78ページ)で、入力音声信号を選択することができます。
・DTS-ES対応のディスクはDTSで再生され、ドルビーデジタル5.1EX対応のディスクはドルビーデジタルで再生されます。

2チャンネルソースをサラウンドで楽しむ

本機では、2チャンネルソース(アナログソースやCDなど)をデコードし、最大5.1チャンネルで再生することができます。また、サラウンドモードを切り替えることによって、さまざまなサラウンド効果を楽しむことができます。

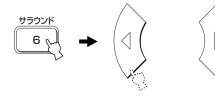
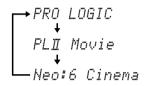
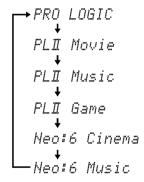
ヒント

サラウンドモードの切替は、ビームモードが「3ビーム」、「5ビーム」、「ST+3ビーム」(49ページ、50ページ)のいずれかに設定されていて、シネマDSP(54ページ)が映画またはオフのときにのみ有効です。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 サラウンドキーを繰り返し押す、またはサラウンドキーを押してから ◁ / ▷ キーを押す

または

シネマDSPが映画のときの表示例

シネマDSPがオフのときの表示例

選択できるサラウンドモードとおすすめのソース

サラウンドモード		おすすめのソース
ドルビープロロジック	―	すべてのソース
ドルビープロロジックII	Movie *Music *Game	映画 音楽 ゲーム
DTS Neo:6	Cinema *Music	映画 音楽

*：シネマDSPがオフ(55ページ)のときにのみ有効です。

サラウンドモードのパラメーターを変更する

サラウンドモードでドルビープロロジックII MusicまたはDTS Neo:6 Musicを選択している場合は、ソースにあわせてサウンドをアレンジすることができます。

1 △/▽キーを押して、パラメーターを選択する

2 ◁/▷キーを押して、設定値を変更する

選択できるパラメーターと変更できる設定値は次のとおりです。

PANORAMA（PLII Music選択時）

フロント音場の広がり感を調節します。サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

選択項目：ON、OFF
初期設定：OFF

DIMENSION（PLII Music選択時）

フロント音場とサラウンド音場レベルを好みのバランスにすることができます。
－にするとサラウンド側、＋にするとフロント側が強くなります。

可変範囲：－3～STD～＋3
初期設定：STD

CT WIDTH（PLII Music選択時）

センターからの音声を左右に振り分けることができます。
0にするとセンターのみ、7にするとフロントL/Rのみからセンター音声が出力されます。

可変範囲：0～7
初期設定：3

C. IMAGE（DTS Neo:6 Music選択時）

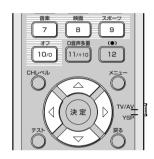
フロント音場の広がり感を調節します。
値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。

可変範囲：0.0～1.0
初期設定：0.3

シネマDSPを楽しむ

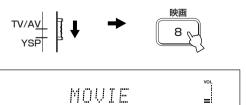
シネマDSPとは、世界の著名なコンサートホールや劇場などで測定したデータに基づく音場(音の広がり)技術を応用することにより、ご家庭で映画館のような視聴体験を実現する機能のことです。ドルビーデジタルやDTS、ドルビープロロジックのシステムと組み合わせて、音のスケールや奥行き、音量感を補います。

ヒント

ビームモードが「ステレオ」(56ページ)または「マイビーム」(57ページ)に設定されているときには、シネマDSPの機能は無効です。

音楽プログラム

TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせてから、音楽キーを押します。 MUSIC	MUSIC(ミュージック) ロックやジャズなどのライブコンサート会場の臨場感をつくりだします。映像/音場空間がスクリーン周囲に大きく広がり、熱狂的な雰囲気を感じることができます。

映画プログラム

TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせてから、映画キーを押します。 	MOVIE(ムービー) セリフと音場効果音が明瞭に描き分けられ、広大な映画空間を演出します。高度な技術を駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、映画の世界をお楽しみいただけます。

スポーツプログラム

TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせてから、スポーツキーを押します。

SPORTS

SPORTS（スポーツ）
スポーツ中継のステレオ放送では、解説は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲に大きく広がって、スポーツ観戦の醍醐味を味わうことができます。

効果レベルを調節する

各DSPプログラムは初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、ソースやリスニングルームの音響にあわせてDSPプログラムの効果レベル（音場効果のかかり具合）を変更できます。

レベル調節範囲：
−6dB（効果を弱く）〜＋3dB（効果を強く）

1 調節したいプログラムを選択する

2 △／▽キーを押す

フロントパネルディスプレイに「DSP LEVEL・・0dB」と表示されます。

DSP LEVEL・・0dB

3 フロントパネルディスプレイに「DSP LEVEL・・0dB」と表示されている間に◁／▷キーを押す

シネマDSPをオフにする

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、シネマDSPをオフにします。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 オフキーを押す

フロントパネルディスプレイに「CINEMA DSP OFF」と表示されます。

CINEMA DSP OFF

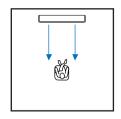
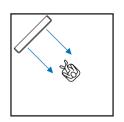
ステレオ再生を楽しむ

ビームモードキーを使って、ビームモードを「ステレオ」にすると、ステレオ再生を楽しむことができます。

「ステレオ」では、フロント左/右の2チャンネルから、ビーム化しない通常の音声を出力します。

CDなどのハイファイステレオソースの再生に最適です。また、通常のテレビのスピーカーの代わりとしてもご利用いただけます。

マルチチャンネルソースの場合は、フロント左/右チャンネル以外の音声をフロント左/右チャンネルにミックスして、フロント左/右チャンネルから出力します。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 ステレオキーを押す

フロントパネルディスプレイに「STEREO MODE」と表示されます。

STEREO

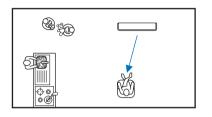
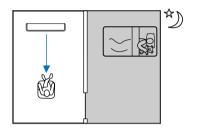
ヒント

「ステレオ」を選択しているときには、サラウンドモード(52ページ)、シネマDSP(54ページ)の機能は無効です。

音声を明瞭に再生する（マイビーム）

ビームモードキーを使って、ビームモードを「マイビーム」にすると、テレビなどの音声を明瞭に再生できます。「マイビーム」では、ビーム化された音声を1チャンネルで出力します。

周囲が騒がしく、テレビの音声がはっきりと聞き取れないときに使用すると便利です。また、深夜に視聴する場合など、音量を小さくして「マイビーム」にすると、周囲に音が響きません。自動または手動でビームの角度を調節し、視聴位置に音声を向けてご利用ください。

1 *TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる*

YSPモードに切り替わります。

2 *マイビームキーを押す*

フロントパネルディスプレイに「MY BEAM」と表示されます。

MY BEAM　VOL

ヒント

マイビームキーを押してから数秒経つと、フロントパネルディスプレイに、選択されている機器名と「MY・BM」が表示され、「・」の部分が点滅します。

表示例

DVD　MY・BM　VOL

自動的にビーム角度を調節する

リモコンのキーを押すことにより、本機がリモコンの位置を検知し、視聴位置へ自動的にビームを向けることができます。

57ページの手順2で、マイビームキーを2秒以上押す

本機左右から1回ずつテスト音が出力されます。

測定に失敗すると、エラー音が出力され、フロントパネルディスプレイに「MY BEAM ERROR」と表示されます。その場合、右記のご注意を参考に、再度操作してください。

角度（水平方向）調節範囲：左50°～右50°
動作保証範囲：6m、左30°～右30°

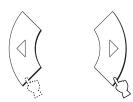
ご注意

- 自動でビーム角度を調節するために、リモコンに内蔵されたマイクがテスト音を測定し、リモコンの位置を検知します。そのため、周囲の騒音が大きい場合、エラーになることがあります。
- 測定中は、リモコンを振ったり動かしたりしないでください。
- エラーになることが多い場合、リモコンの電池が消耗している場合があります。その場合は、電池を交換してから再度操作してください。

手動でビーム角度を調節する

動作保証範囲外で「マイビーム」を使用する場合、テスト音を聴きながら、手動でビームの角度を調節することができます。

1 フロントパネルディスプレイに「MY BEAM」と表示されている間に（56ページ手順2）、◁ / ▷ キーを押す

フロントパネルディスプレイに、現在設定されている角度の値が表示されます。
◁ キーを押すたびに左方向へ角度が大きくなり、▷ キーを押すたびに右方向へ角度が大きくなります。

ANGLE・・・・・・・・0

2 しばらくの間操作をしない

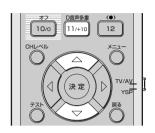
角度調節モードを終了します。

角度（水平方向）調節範囲：
左90°～右90°

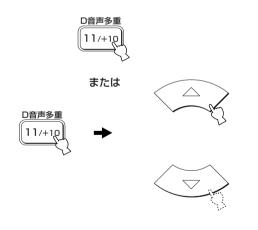
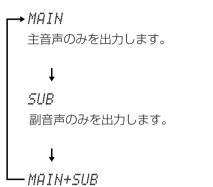
ヒント

- 「マイビーム」を選択しているときには、サラウンドモード（52ページ）、シネマDSP（54ページ）、TruBass（61ページ）の機能は無効です。また、サブウーファーからは音声が出力されません。
- ナイトリスニング/テレビ音量一定モード（60ページ）と併用すると、より効果的に音声を出力できる場合があります。

デジタル音声多重を切り替える

本機では、BS/地上デジタル放送の映画、ドラマなどで使われているAAC信号やHDDレコーダーに録画/録音されているドルビーデジタル信号の音声入力時に、どの音声を出力するか選択することができます。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 D音声多重キーを繰り返し押す、またはD音声多重キーを押してから △ / ▽ キーを押す

ヒント

再生している映画やドラマなどに副音声が収録されていない場合、D音声多重キーを押しても、音声の切り替えはできません。

音量を抑えて再生する(ナイトリスニングモード・テレビ音量一定モード)

ナイトリスニングモードとテレビ音量一定モードを合わせて音量モードといい、音量モードキーで切替ができます。ナイトリスニングモードとは、夜間に小音量で映画や音楽を楽しみたいときに、大きな効果音などを抑えてセリフなどは明瞭に再生する機能です。テレビ音量一定モードとは、テレビを再生中、CMなどで急に音量が大きくなるのを防ぐ機能です。

ナイトリスニングモードには、映画再生に適したCINEMAモードと音楽再生に適したMUSICモードが用意されています。再生するソースにあわせてサラウンドモードを選択してください。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

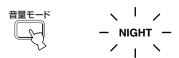
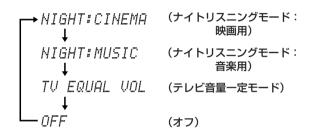
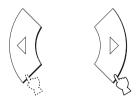
YSPモードに切り替わります。

2 音量モードキーを押す

フロントパネルディスプレイに現在設定されているモードが表示されます。

3 音量モードキーを繰り返し押して、モードを選択する

ナイトリスニングモードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。

4 各モードが表示されている間に ◁ / ▷ キーを押す

エフェクトレベル(音を抑えるレベル)を選択することができます。

Effect.Lvl:MIN (弱めに抑える)

↑↓

Effect.Lvl:MID (ほどよく抑える)

↑↓

Effect.Lvl:MAX (強めに抑える)

ヒント

リモコンの電源キーまたは本体のSTANDBY/ONキーを押すか、電源コードを抜くと、音量モードは解除されます。

低音を効果的に再生する機能(TruBass)を切り替える

低音域の信号を効果的に出力する機能(TruBass)のオン/オフを切り替えます。オンに設定すると、サブウーファーがない場合でも低音を効かせて再生することができます。

TruBassの低音は振動が伝わりにくいため、近隣への低音妨害を低減することもできます。

ヒント

ビームモードが「マイビーム」(57ページ)に設定されているときには、TruBassの機能は無効です。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 TruBassキーを押す

フロントパネルディスプレイに現在の設定(オンまたはオフ)が表示されます。
初期設定では、オンになっています。

3 TruBassキーを押して、フロントパネルディスプレイに「TruBass ON」と表示させる

TruBass ON　VOL

TruBassを解除するには

TruBassキーを押して、フロントパネルディスプレイに「TruBass OFF」と表示させます。

TruBass OFF　VOL

スリープタイマーを使用する

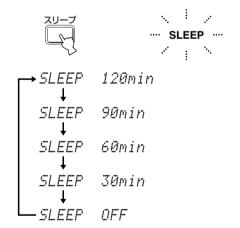
一定時間が経過すると、自動的に電源がスタンバイ状態になるように設定します。本機で音声を聴きながらおやすみになりたい場合などに便利です。

スリープタイマーを設定するには

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 スリープキーを繰り返し押す

スタンバイ状態になるまでの時間が以下のように切り替わります。選択している間はSLEEPインジケーターが点滅します。

3 しばらくの間操作をしない

SLEEPインジケーターが点灯に変わり、スリープタイマーが設定されます。

スリープタイマーを解除するには

スリープタイマーを設定したあとに設定を解除したい場合です。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 スリープキーを繰り返し押して、「SLEEP OFF」を選択する

SLEEP OFF VOL

3 しばらくの間操作をしない

SLEEPインジケーターが消灯し、設定が解除されます。

SLEEP
消灯

ヒント

リモコンの電源キーまたは本体のSTANDBY/ONキーを押すか、電源コードを抜くと、スリープタイマーは解除されます。

本機を詳細に設定する

自動設定で調節されたサラウンドサウンドをお好みに合わせて変更したり、その他の各種設定を行うことができます。

詳細設定メニュー一覧

詳細設定では、本機の性能をより引き出してお使いいただくことができます。自動設定で十分にリアルサラウンドサウンドをお楽しみいただくことができますが、さらに高精度で高品質のサラウンドサウンドを追求するには、詳細設定におすすみください。詳細設定は、以下のように用途、機能別に4つのカテゴリーに分類されています。

ヒント

自動設定されたデータはメモリーに保存することができます(42ページ)。リスニングルームの状況に合わせてそれぞれのデータを保存し、ご使用の際に設定を切り替えると便利です。

メニュー	サブメニュー	内容	ページ
サウンド設定	トーンコントロール	高音域と低音域の出力レベルを調節します。	70
	サブウーファー設定	サブウーファーに関するいろいろな設定をします。	70
	消音レベル	消音にしたときの音量を設定します。	71
	映像と音声のタイミング調整	音声出力のタイミングが映像と一致するよう調節します。	71
	設置環境	本機の設置環境を設定します。	72
	DD/DTS ダイナミックレンジ圧縮	ダイナミックレンジの設定をします。	72
ビーム設定	設置視聴環境	リスニングルームでの本機の位置や視聴位置を設定します。	66
	ビーム調整	ビームの指向性に関する設定をします。	67
	Lch/Rch位置調整	フロント左右チャンネルの定位を調節します。	69
入力設定	入力端子設定	音声入力端子の設定を変更します。	73
	入力信号デコードモード	電源をオンにしたときの入力の設定をします。	74
	入力レベル調整	端子ごとに入力レベルを設定します。	74
表示設定	本体表示設定	フロントディスプレイの表示の明るさを設定します。	75
	メニュー画面設定	テレビ画面に表示される本機のメニューに関する設定をします。	75

詳細設定メニューの操作手順

詳細設定メニューの操作について説明します。メニューの各項目の詳細については、66ページ～75ページをご参照ください。

ヒント

メニューを操作中にカーソルキーの操作ができなくなった場合は、TV/AV/YSPスイッチがTV/AV側に設定されていないか確認してください。
メニューを操作するには、YSP側にスライドさせてください。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP 側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 メニューを押す

テレビ画面にメニューが表示されます。

メニュー
→ ・メモリー
・自動設定
・詳細設定

[▲] ／ [▼] ：選択
[決定] ：決定

3 △ / ▽ キーを押して、詳細設定を選択し、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

・詳細設定
→ 1）サウンド設定
2）ビーム設定
3）入力設定
4）表示設定

[▲] ／ [▼] ：選択
[決定] ：決定

4 △ / ▽ キーを押して、設定したい項目があるメニューを選択する

5 決定キーを押す

選択したメニュー内の項目が表示されます。

表示例：手順4でビーム設定を選んだ場合

2）ビーム設定
→ A）設置視聴環境
B）ビーム調整
C）Lch/Rch位置調整

[▲] ／ [▼] ：項目選択
[決定] ：決定

6 △ / ▽ キーを押して、設定したい項目を選ぶ

7 決定キーを押す

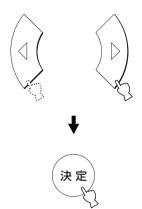
選んだ項目の設定モードに入り、現在の設定が表示されます。
項目によっては、△ / ▽キーでサブメニューを選びます。

表示例

A) 設置視聴環境　1/3
→ 本体設置位置・・・・・壁置き
[▲] / [▼] : 項目選択　[◀] / [▶] : 調整
[決定] : 終了

項目によっては

8 ◁ / ▷ キーを押して、設定を調節、変更する

設定を確定するには、決定キーを押します。前の表示に戻るには、戻るキーを押します。

9 メニューキーを押して、設定を終了する

テレビ画面からメニューが消えます。

ヒント

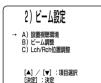
設定結果をメモリーに保存したり、そのデータをお部屋の状況に応じて呼び出したい場合は「メモリー機能を使用する」(42ページ)をご参照ください。

ビームを設定する

本機から出力されているビームに関するさまざまな設定を行います。

ヒント

各チャンネルのビームの音量レベルは、「音のバランスを調節する」（76ページ）で調節できます。

（メニュー→詳細設定→ビーム設定）

設置環境の設定により、ビームを調節する（設置視聴環境）

リスニングルームでの本機の位置や、本機から視聴位置までの距離を設定します。

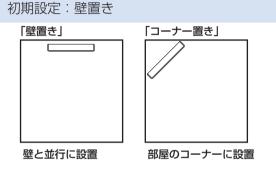
「設置視聴環境」の各項目の値を変更するたびに「ビーム調整」の項目で、設定が自動的に適切な値へ変更されます。

ご注意

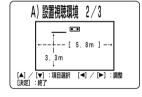
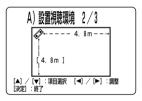
「設置視聴環境」の設定を変更すると、自動設定で調節されたビームに関するデータが失われます。自動設定で調節されたビームのデータを生かした状態で、さらに調節を加えたい場合は「ビームの角度や長さを設定する（ビーム調整）」から設定を行ってください。

1 設置視聴環境 1/3の「本体設置位置」を設定する

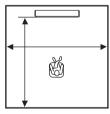
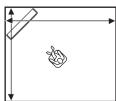
本機の設置状態を設定します。

選択項目：壁置き、コーナー置き
初期設定：壁置き

2 設置視聴環境 2/3を設定する

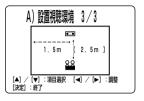
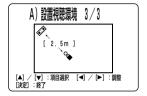
リスニングルームの長さと幅を設定します。

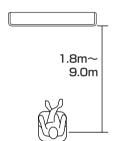
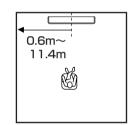
「壁置き」の場合

「コーナー置き」の場合

可変範囲：2.0m～12.0m

「本体設置位置」を「壁置き」に設定した場合は、リスニングルームの幅と本機から後方までの長さを設定します。

「コーナー置き」に設定した場合は、視聴位置の左側前方の壁の長さと右側前方の壁の長さを設定します。

3 設置視聴環境 3/3を設定する

本機前面から視聴位置までの距離や、本機の中心から左側の壁までの距離を設定します。

「壁置き」の場合

「コーナー置き」の場合

本機から視聴位置までの可変範囲：
1.8m～9.0m

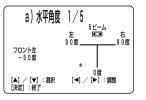
本機から左側の壁までの可変範囲：
0.6m～11.4m

「壁置き」場合のみ

ビームの水平角度・経路長・焦点距離・高音レベルを個別に設定する（ビーム調整）

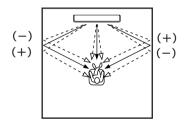
ビームの指向性に関する設定を行います。

ヒント

・自動設定の実行や、詳細設定「設置視聴環境」の設定により、各項目の初期設定値は自動的に設定されています（「焦点距離」の「センター」は除く）。
・ビームモード（49ページ、50ページ、56ページ、57ページ））の設定により、設定できないチャンネルは「——」と表示されます。

1 「水平角度」を設定する

自動的に出力されるテスト音を聴きながら、ビームの水平方向の角度をチャンネルごとに調節します。

左方向に調節すると音が出力される方向は左方向へ移動し、右方向に調節すると右方向へ移動します。これによってビームの経路が移動し、ビームの方向を最適化することができます。

フロント左/右
可変範囲：左90度～右90度
センター
可変範囲：左90度～右90度
サラウンド左/右
可変範囲：左90度～右90度

2 「ビーム経路長」を設定する

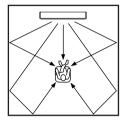
各チャンネルのビームが、出力されてから壁にはね返って視聴位置に到達するまでの距離を設定します。この設定により、音の遅延量が補正され、各チャンネルの音が同じタイミングで視聴位置に届くようになります。

ヒント

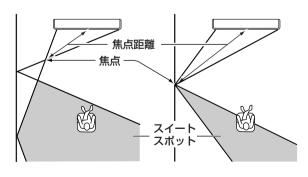
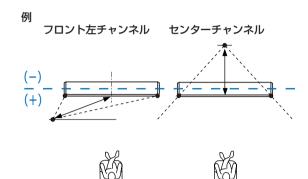
「ビーム経路長」は「水平角度」を調節した場合にのみ設定してください。自動設定（36ページ）を行った後、「ビーム経路長」の設定のみを変更すると、音が届くタイミングがずれてしまいます。

フロント左/右
可変範囲：0.3m～24.0m
センター
可変範囲：0.3m～24.0m
サラウンド左/右
可変範囲：0.3m～24.0m

フロント左/右
可変範囲：－1.0m～＋13.0m
センター
可変範囲：－1.0m～＋13.0m
初期設定：－0.5m
サラウンド左/右
可変範囲：－1.0m～＋13.0m

右図では、矢印の長さがビームの経路長を表しています。

3「焦点距離」を設定する

音がよくきこえる範囲（スイートスポット）の広さを調節します。

本機は、下図のように音が一旦焦点を結び、その地点からまた広がるよう設定されています。数値を小さく（−（マイナス）方向に）設定するほどスイートスポットは広くなり、数値を大きく（＋（プラス）方向に）設定するほどスイートスポットは狭くなります。

センターチャンネルについては、初期設定（−0.5m）での使用をおすすめします。

ヒント

自動設定（36ページ）および「設置視聴環境」（66ページ）の設定では、スイートスポットが本機の幅より少し広くなるよう自動的に調節されます。

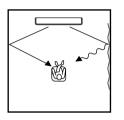
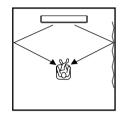
4「高音レベル」を設定する

高音域の指向性を各チャンネルごとに調節します。

カーテンなどに音が吸収され、ビームの反射が小さくなってしまうときに、高音域のレベルを上げることにより、それを補正します。

数値が上がるほど、ビームの反射が大きくなります。

フロント左/右
可変範囲：－12.0dB～＋12.0dB
センター
可変範囲：－12.0dB～＋12.0dB
初期設定：0dB
サラウンド左/右
可変範囲：－12.0dB～＋12.0dB

調節しないとき

フロント右チャンネルのレベルを上げたときのイメージ

フロント左/右チャンネルのバランスを調節する（LchRch位置調整）

フロント左/右チャンネルの音声が聞こえてくる方向が、センターに近い位置になるように調節します。

ヒント

各チャンネルのビームの音量レベルは、「音のバランスを調節する」（76ページ）で調節できます。

視聴位置がリスニングルームの中心から極端にずれている場合など、左右で音の聞こえてくる方向が不自然な場合にご利用ください。

ビームモードを「3ビーム」または「5ビーム」に設定しているときのみ調節することができます。

オンを選択すると「1 「左」を設定する」および「2 「右」を選択する」で音の方向を調節できます。

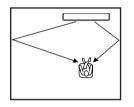
選択項目：オン、オフ
初期設定：オフ

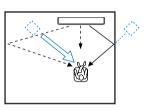
表示例：
オンに設定した場合

1 「左」を設定する

左側から聞こえてくる音の方向を調節します。

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

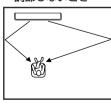
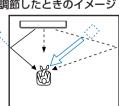
可変範囲：0%～95%
初期設定：0%

調節しないとき

フロント左チャンネルを調節したときのイメージ

2 「右」を設定する

右側から聞こえてくる音の方向を調節します。

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

可変範囲：0%～95%
初期設定：0%

調節しないとき

フロント右チャンネルを調節したときのイメージ

音声出力を設定する

音質や音色の調節など、音声の出力に関する設定をします。

（メニュー→詳細設定→サウンド設定）

1) サウンド設定
→ A) トーンコントロール
B) サブウーファー設定
C) 消音レベル
D) 映像と音声のタイミング調整
E) 設置環境
F) DD／DTS　ダイナミックレンジ圧縮
[▲]／[▼]：選択
[決定]：決定

高音域と低音域の出力レベルを設定する（トーンコントロール）

高音域と低音域の出力レベルを調節します。

1 「高音」を調節する

高音域の音色を調節します。

可変範囲：－12.0dB～＋12.0dB
初期設定：0dB

2 「低音」を調節する

低音域の音色を調節します。

可変範囲：－12.0dB～＋12.0dB
初期設定：0dB

サブウーファーの設定をする

サブウーファーについて、さまざまな設定をします。

1 「バス出力」を設定する

サブウーファーと本機のどちらから低音成分を出力するかを設定します。

選択項目：サブウーファー、フロント
初期設定：フロント

「サブウーファー」：本機に接続したサブウーファーから低音成分を出力します。

「フロント」：本機から低音成分を出力します。

2 「クロスオーバー」を設定する

「バス出力」を「サブウーファー」に設定しているときに、サブウーファーに出力する低音成分の周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分がサブウーファーに出力されます。

選択項目：80Hz、100Hz、120Hz
初期設定：100Hz

3 「LFE レベル」を設定する

（LFE：エルエフイー）

ドルビーデジタル、DTS、およびAAC信号に含まれているLFE（低域効果音）の音量を調節します。

可変範囲：－20dB～0dB
初期設定：0dB

4 「距離」を設定する

サブウーファーから視聴位置までの距離を設定します。

可変範囲：0.3m～15.0m
初期設定：3.0m

消音のレベルを設定する

リモコンの消音キーを押して消音するときに下げる音量を、2段階から選択します。

C) 消音レベル
▶消音　　－20dB
[◀] ／ [▶] ：選択
[決定] ：終了

選択項目：消音、－20dB
初期設定：消音

「消音」：完全に消音し、無音にする場合に選択します。

「－20dB」：いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生する場合に選択します。

映像と音声のタイミングを調節する

音声出力のタイミングが映像と一致するように補正します。

デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。

この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。設定値が大きくなるほど音声が遅れて出力されます。

プラズマディスプレイをご使用の場合は30msec～50msec、ブラウン管式テレビをご使用の場合は0msecの設定をおすすめします。

可変範囲：0msec～160msec
初期設定：0msec

設置環境を設定する

本機の設置状況やリスニングルームの環境を設定します。

E) 設置環境
→ 壁掛け設置・・・・・いいえ
部屋の響き・・・・・標準
[▲]/[▼]:項目選択 [◀]/[▶]:選択
[決定]:終了

1 「壁掛け設置」を選択する

本機をラックなどに置く場合は「いいえ」を選択してください。
本機を壁掛けブラケット等を利用して壁面に直接設置する場合は「はい」を選択してください。本機背面と壁が接近していると、中低音がこもった感じに聞こえることがありますが、それを補正します。

選択項目:いいえ、はい
初期設定:いいえ

2 「部屋の響き」を選択する

一般的なリスニングルームでご使用の場合は「標準」をお選びください。

壁がコンクリートでできている場合など、音がよく反射するリスニングルームでご使用の場合は「大」をお選びください。

選択項目:標準、大
初期設定:標準

ダイナミックレンジ圧縮を設定する

ドルビーデジタル、およびDTS再生時のダイナミックレンジを選びます。

F) DD/DTS ダイナミックレンジ圧縮
圧縮最大 圧縮標準 ▶圧縮なし
[◀]/[▶]:選択
[決定]:終了

選択項目:圧縮最大、圧縮標準、圧縮なし
初期設定:圧縮なし

「圧縮最大」:小音量でも小さな音が明瞭に聴こえる、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

「圧縮標準」:一般的な家庭用として使用するダイナミックレンジです。

「圧縮なし」:小さな音から大きな音まで、ソースの持つサウンドを最大に生かすダイナミックレンジです。

ダイナミックレンジとは?
どれだけ小さな音から、どれだけ大きな音までを雑音や歪みなく再生できるかを表わしたものです。

入力の設定を変更する

音声信号の入力に関する設定を行います。

（メニュー→詳細設定→入力設定）

3）入力設定

→ A）入力端子設定
B）入力信号デコードモード
C）入力レベルt調整

[▲]／[▼]：項目選択
[決定]：決定

入力端子の割り当てを変更する（入力端子設定）

本機のデジタル入力端子に印字されている名前（テレビ/チューナー、DVD、ビデオ、AUX）は便宜的に付けられているものです。
入力端子自体は同一のため、例えば光デジタル入力（テレビ/チューナー）端子にDVDプレーヤー/レコーダーを接続しても機能は変わりません。

例として、本機の同軸デジタル入力(AUX)端子とDVDプレーヤー/レコーダーの同軸出力端子を接続した場合、「3「同軸」を設定する」で「DVD」を選択すると、リモコンのDVDキーでDVDプレーヤー/レコーダーを選択できるようになります。（初期設定「AUX」のままでは、AUXキーを押さないと、DVDプレーヤー/レコーダーを選択できません。）
また、フロントパネルディスプレイやメニューに表示される機器名も実際に接続されている機器名（この場合はDVD）と一致するようになります。

1 「光入力［音声］（1）」を設定する

本機の光デジタル入力（テレビ／チューナー）端子を「テレビ」または「ビデオ」に割り当てることができます。

A）入力端子設定　1/2
光入力[音声]
→（1）・・・・・ テレビ
（ テレビ ）
（2）・・・・・ DVD
（ DVD ）

[▲]／[▼]：項目選択　[◀]／[▶]：選択
[決定]：終了

選択項目：テレビ、ビデオ
初期設定：テレビ

初期設定では、光デジタル入力（テレビ／チューナー）端子は「テレビ」に設定されています。そのため入力選択キーのテレビキーを押すと、接続された機器名に関係なく、フロントパネルディスプレイには「TV」、メニュー画面には「テレビ」と表示されます。

設定を「ビデオ」に変更すると、光デジタル入力（テレビ／チューナー）端子に接続した機器を入力選択キーのビデオキーで選択できるようになり、フロントパネルディスプレイには「VIDEO」、メニュー画面には「ビデオ」と表示されるようになります。

2 「光入力［音声］（2）」を設定する

本機の光デジタル入力（DVD）端子を「DVD」または「AUX」に割り当てることができます。

選択項目：DVD、AUX
初期設定：DVD

初期設定では、光デジタル入力（DVD）端子は「DVD」に設定されています。そのため入力選択キーのDVDキーを押すと、接続された機器名に関係なく、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「DVD」と表示されます。

設定を「AUX」に変更すると、光デジタル入力（DVD）端子に接続した機器を入力選択キーのAUXキーで選択できるようになり、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「AUX」と表示されるようになります。

3 「同軸入力 [音声]」を設定する

本機の同軸デジタル入力(AUX)端子を「AUX」または「DVD」に割り当てることができます。

A) 入力端子設定 2/2
同軸入力 [音声]
→ (3)・・・・・ AUX
(AUX)

[▲]/[▼]:項目選択 [◀]/[▶]:選択
[決定]:終了

選択項目:AUX、DVD
初期設定:AUX

初期設定では、同軸デジタル入力(AUX)端子は「AUX」に設定されています。そのため入力選択キーのAUXキーを押すと、接続された機器名に関係なく、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「AUX」と表示されます。

設定を「DVD」に変更すると、同軸デジタル入力(AUX)端子に接続した機器を入力選択キーのDVDキーで選択できるようになり、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「DVD」と表示されるようになります。

電源を入れたときに適用する入力モードを設定する(入力信号デコードモード)

本機の電源をオンにしたときに使用する音声信号の入力設定を指定することができます。本機が自動的に適切な音声入力信号を選択するか、前回選択していた音声入力信号を今回もそのまま適用するかのどちらかを設定します。

ヒント

音声信号の種類については「入力信号のデコード方法を設定する」(78ページ)をご参照ください。

B) 入力信号デコードモード
▶自動選択 前回設定

[◀]/[▶]:選択
[決定]:終了

選択項目:自動選択、前回設定
初期設定:自動選択

「自動選択」:入力された音声信号を識別して、自動的に適切な入力選択をします。

「前回設定」:前回電源を切ったときに選択していた音声入力信号を再生します。設定とは異なった音声信号が入力された場合は、音声は出力されません。

各端子の入力レベルを調節する(入力レベル調整)

端子ごとに入力レベルを設定して、ソースにより異なる音量のばらつきを調節します。

ヒント

本機と外部機器との接続状況によって、メニュー項目が変わります。

表示例

メニューに表示されたそれぞれの端子について、入力レベルを調節します。

可変範囲: −6.0dB〜0dB
初期設定: −3.0dB

表示の設定を変更する

本体のフロントパネルディスプレイ表示や、テレビ画面に表示されるメニューについて設定します。

（メニュー→詳細設定→表示設定）

4）表示設定
→ A）本体表示設定
B）メニュー画面設定
［▲］／［▼］：項目選択
［決定］：決定

フロントパネルディスプレイの明るさを設定する（本体表示設定）

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを設定します。

A）本体表示設定
→ 操作時の明るさ・・・・・・0
非操作時の明るさ・・・・・0
［▲］／［▼］：項目選択　［◀］／［▶］：選択
［決定］：終了

1 「操作時の明るさ」を設定する

本体のキーまたはリモコンキーでなんらかの操作をすると、フロントパネルディスプレイの表示が一定時間明るくなります。そのときの明るさを調節します。

選択項目：－2、－1、0
初期設定：0

2 「非操作時の明るさ」を設定する

一定時間なにも操作しないと、フロントパネルディスプレイは暗く表示されます。

そのときの明るさを調節します。「操作時の明るさ」の設定値を基準にさらに3段階暗くすることができます。

選択項目：非表示、－3～－1、0
初期設定：0

メニューの表示を設定する（メニュー画面設定）

テレビ画面に表示される本機のメニューに関して設定します。

B）メニュー画面設定
→ 上下位置・・・・・・・・・0
背景色・・・・・・・・・・青
［▲］／［▼］：項目選択　［◀］／［▶］：選択
［決定］：終了

1 「上下位置」を設定する

メニューを表示する位置を調節します。－（マイナス）方向にすると表示位置が上に移動し、＋（プラス）方向にすると下に移動します。

可変範囲：－5～＋5
初期設定：0

2 「背景色」を設定する

メニューの背景色を選択します。

選択項目：青、グレー
初期設定：青

本機について
設置・接続する
準備する
設定する
基本操作
応用操作
付録

音のバランスを調節する

各チャンネルの音量のバランスを調節します。各チャンネルの音量バランスを整えることによって、自然なサラウンドサウンドになります。

テスト音を使って調節する

各チャンネルからテスト音を出力することによって、チャンネルごとの音の大きさの違いを聴きくらべ、バランスを調節することができます。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

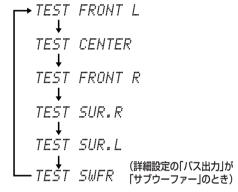
YSPモードに切り替わります。

2 テストキーを押す

フロントパネルディスプレイに「TEST FRONT L」と表示され、フロント左チャンネルからテスト音が出力されます。

TEST FRONT L

3 △/▽キーを押して調節したいチャンネルを選択する

フロントパネルディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

4 ◁/▷キーを押して音量レベルを調節する

音量調節レベルは－10dB～＋10dBです。

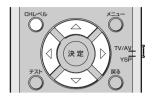
設定中に音量を上げた場合は、次のステップにすすむ前に必ず音量を確認し、上がり過ぎている場合は音量を下げてください。

5 テストキーを押して、設定を終了する

ヒント

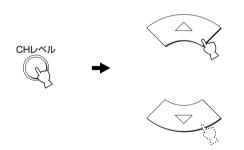
・サブウーファーを接続し、「1 「バス出力」を設定する」(70ページ)で「サブウーファー」を選択すると、「SWFR」の項目も設定できます。
・調節できないチャンネルは「－－」と表示されます。
・ビームモードが「ステレオ」および「マイビーム」の場合、テスト音を出力して音量レベルを調節することはできません。

再生しながら調節する

DVDなどを再生しながら、各チャンネルの音量バランスを調節することができます。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 CHレベルキーを繰り返し押す、またはCHレベルキーを押してから△/▽キーを押して、調節したいチャンネルを選択する

フロントパネルディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

3 ◁/▷キーを押して、音量レベルを調節する

音量レベル調節範囲は－10dB～＋10dBです。

4 しばらくの間操作をしない

設定を終了します。

ヒント

・サブウーファーを接続し、「1「バス出力」を設定する」(70ページ)で「サブウーファー」を選択すると、「SWFR」の項目も設定できます。
・調節できないチャンネルは「－－」と表示されます。
・ビームモードが「ステレオ」の場合、サブウーファーのみ調節できます。
「マイビーム」の場合、センターチャンネルのみ調節できます。

入力信号のデコード方法を設定する

テレビやDVDから本機に入力される音声信号の選択をします。

「AUTO」(初期設定)のままでほとんどの音声信号を再生することができますが、必要に応じてデジタル、アナログ信号の優先順位を選んだり、DTSまたはAAC信号に入力設定を固定したりすることができます。

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

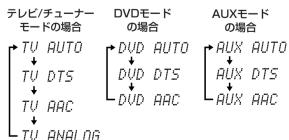
YSPモードに切り替わります。

2 入力選択キーを押して、選択したいモードに切り替える

3 入力モードキーを押す

フロントパネルディスプレイに現在の入力設定が表示されます。

4 入力モードキーを繰り返し押す

設定を変更することができます。ビデオはANALOGの設定となっています(工場出荷時)。

AUTO

入力された音声信号を識別して、自動的に適切な入力選択とデコードをします。

デジタルとアナログの両方で接続したテレビから、両方の信号が入力された場合には、デジタル信号を優先して選択します。

通常はこのモードをご使用ください。

DTS

DTS信号のみを再生します。

DTS信号を入力している場合、AUTOに設定しているときよりも安定した再生が可能です。

DTS—CDまたはDTS—LDを再生するときにおすすめします。

AAC

AAC信号のみを再生します。

AAC信号を入力している場合、AUTOに設定しているときよりも安定した再生が可能です。

BS/地上デジタル放送やD—VHSデッキなどからAAC信号入力するときにおすすめします。

ANALOG

デジタル信号とアナログ信号が同時に入力されている場合でも、アナログ信号を再生します。

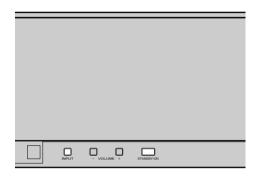
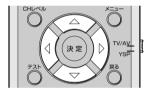
ヒント

「電源を入れたときに適用する入力モードを設定する(入力信号デコードモード)」(74ページ)で、本機の電源をオンにした際に使用する入力設定を「自動選択」(AUTO)にするか、前回使用していた入力設定にするかを指定することができます。

拡張メニューを設定する

各種設定を保護したり、工場出荷状態に戻したりします。

拡張メニューの操作手順

拡張メニューの操作について説明します。各メニューの詳細については、80ページをご参照ください。

1 本機の電源をオフ(スタンバイ)にする

2 本体のINPUTキーを押しながら、STANDBY/ONキーを押して電源を入れる

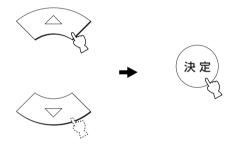
フロントパネルディスプレイに「MEMORY PROTECT」と表示されます。

押しながら

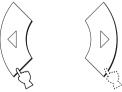
3 INPUTキーをはなす

4 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

5 △ / ▽ キーを押して、設定したいメニューをフロントパネルディスプレイに表示させ、決定キーを押す

表示例：「DEMO MODE」を選んだ場合

DEMO MODE

6 ◁ / ▷ キーを押して、設定したい項目/指定したい値をフロントパネルディスプレイに表示させる

表示例：手順5で「DEMO MODE」を選んだ場合

DEMO: OFF ↔ DEMO: ON

7 STANDBY/ONキーを押して、電源をスタンバイにする

再度STANDBY/ONキーを押して電源を入れると、設定されます。

メニューの設定内容を保護する

メモリー保存した設定の内容を変更できないようにします。「拡張メニューの操作手順」（79ページ）の手順5で「MEMORY PROTECT」を表示させ、手順6で「PROTECT: ON」（設定内容を保護したい場合）を選択してください。

MEMORY PROTECT

選択項目：
PROTECT: OFF、PROTECT: ON

音量の最大値を設定する

音量を、指定した値より大きくできないように設定します。「拡張メニューの操作手順」（79ページ）の手順5で「MAX VOLUME SET」を表示させ、手順6で値を設定してください。

MAX VOLUME SET

調整範囲：
MIN（最小）、01～99、MAX（最大）

電源を入れたときの音量を固定する

本機の電源をオンにしたときの音量を、常に指定した値になるように設定します。「拡張メニューの操作手順」（79ページ）の手順5で「TURN ON VOLUME」を表示させ、手順6で値を設定してください。

TURN ON VOLUME

調整範囲：
OFF、01～99、MAX（最大）

デモモードで再生する

デモモードでは、ビーム化された音声を1チャンネルで出力し、水平に動作（スイープ）させます。これにより、本機からビームがどのように出力されているか体感していただけます。「拡張メニューの操作手順」（79ページ）の手順5で「DEMO MODE」を表示させ、手順6で「DEMO: ON」（デモモードで再生したい場合）を選択してください。

DEMO MODE

選択項目：
DEMO: OFF、DEMO: ON

音声をスイープさせるには

決定キーを押します。

スイープを停止させるには

もう一度決定キーを押します。

ヒント

拡張メニューの「DEMO MODE」オン/オフにかかわらず、本機から出力されるテスト音をスイープさせることもできます。
テスト音をスイープさせるには、本体のINPUTキーを2秒以上押してください。スイープは自動的に終了します。

設定した内容を初期化する

各種設定をすべて工場出荷状態に戻します。「拡張メニューの操作手順」（79ページ）の手順5で「FACTORY PRESET」を表示させ、手順6で「PRESET: RESET」（工場出荷時の状態に戻したい場合）を選択してください。

FACTORY PRESET

選択項目：
PRESET:CANCEL、PRESET: RESET

本機のリモコンで外部機器を操作する

外部機器のリモコンコード(86ページ)を登録すると、本機のリモコンを使用して本機に接続したテレビやDVD、ビデオデッキなどの外部機器を操作することができます。

ご注意

- 外部機器の機種によっては、本機のリモコンで一部の機能を操作できない場合があります。また、全く操作できない場合もあります。このような場合は各機器に付属しているリモコンをご使用ください。
- リモコンの電池が切れると、約2分後にリモコンの設定内容が消去されます。この場合、必要に応じてリモコンコードを再登録してください。また、電池が切れてから2分に満たない場合でも、電池の交換中にリモコンのキーを押すと、設定が消えてしまうことがありますので、ご注意ください。

リモコンコードを登録する

入力選択キーのテレビキーにはテレビの、DVDキーにはDVDの、ビデオキーにはビデオデッキの、AUXキーにはその他の機器のリモコンコードを登録することができます。

1 コードセットキーを押しながら、リモコンコードを設定したい外部機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順2へすすみます。

設定例(ヤマハ製DVD)

押しながら

2 トランスミッションインジケーターの点滅が点灯に変わったら、コードセットキーを押したまま、数字キーで外部機器のリモコンコード(86ページ)を入力する

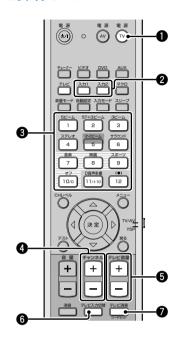
設定例(ヤマハ製DVD)

3 「設定した機器を操作する」(82ページ)を参照し、登録した外部機器のいずれかの操作を実行する

外部機器が正しく機能すれば登録は完了です。

正しく機能しない場合はリモコンコードが合致していない可能性があります。本機に接続している外部機器のリモコンコード(86ページ)を確認後、手順1を再度実行してください。

設定した機器を操作する

テレビを操作する

TV/AV/YSPスイッチをTV/AV側にスライドさせてから、テレビキーを押して入力をテレビに切り替えます。

❶ **電源(TV)キー**：テレビの電源をオンにします。

❷ **テレビ入力1/2キー**：テレビの入力を直接指定します。

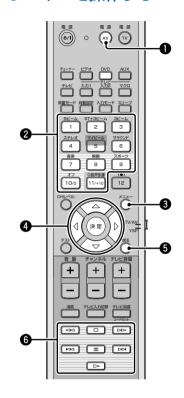
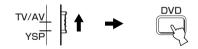
❸ **数字キー**：チャンネルを直接指定します。

❹ **チャンネル(+/−)キー**：テレビのチャンネルを切り替えます。

❺ **テレビ音量(+/−)キー**：テレビの音量を調節します。

❻ **テレビ入力切替キー**：テレビの入力を切り替えます。

❼ **テレビ消音キー**：テレビの音量を一時的に消音します。

DVDプレーヤーを操作する

TV/AV/YSPスイッチをTV/AV側にスライドさせてから、DVDキーを押して入力をDVDに切り替えます。

❶ **電源(AV)キー**：DVDの電源をオンにします。

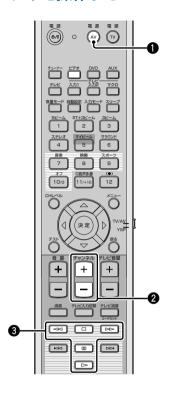
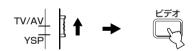
❷ **数字キー**：数字を入力します。

❸ **メニューキー**：DVDメニューを表示します。

❹ **カーソル(△/▽/◁/▷)キー/決定キー**：DVDメニューを選択します。

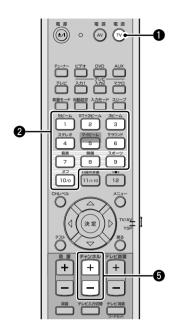
❺ **戻るキー**：DVDメニューで前の画面に戻る、またはDVDメニューから抜けるときに押します。

❻ **DVD、ビデオデッキ操作キー**：再生、停止などの操作をします。

ビデオデッキを操作する

TV/AV/YSPスイッチをTV/AV側にスライドさせてから、ビデオキーを押して入力をビデオデッキに切り替えます。

❶ **電源(AV)キー**：ビデオデッキの電源をオンにします。

❷ **チャンネル(+/−)キー**：ビデオデッキのチャンネルを切り替えます。

❸ **DVD、ビデオデッキ操作キー**：再生、停止などの操作をします。

衛星放送/ケーブルTVチューナーを操作する

TV/AV/YSPスイッチをTV/AV側にスライドさせてから、チューナーキーを押して入力をチューナーに切り替えます。

❶ **電源(TV)キー**：チューナーの電源をオンにします。

❷ **数字キー**：チャンネルを直接指定します。

❸ **チャンネル(+/−)キー**：チューナーのチャンネルを切り替えます。

ヒント

TV/AV/YSPスイッチがYSP側に設定されていても、TV/AV側に設定されている場合と同様に機能するキーもあります。

テレビマクロ機能を使用する

テレビマクロ機能とは、入力選択キーで入力モードを選んだだけで、テレビの入力切替までを自動的に行うことができるようにする機能です。例えばDVDを再生する場合、通常は(1)テレビの入力を切り替える→(2)入力ソースをDVDに切り替える・・・などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーのDVDキーを押すだけでこのような一連の操作を行うことができます。

ご注意

- テレビマクロの設定は、テレビのリモコンコードを登録(81ページ)したあとに行ってください。テレビマクロ設定後にテレビのリモコンコードが登録された場合、リモコンコード登録が無効になります。
- チューナー機能が搭載されていないテレビをご使用の場合は設定の方法が異なります(85ページ)。
- 設定の途中で、下のリモコン図で示されている以外のキーを押すと、設定が無効になります。
- 手順2または3で、キーを押す間隔が10秒を超えると、すべての操作が無効になります。その場合、手順1からやりなおしてください。

1 コードセットキーを押しながら、マクロを設定したい機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順2へすすみます。

設定例(DVD)

押しながら

2 コードセットキーを押したまま、テレビマクロキーを押す

押したまま

3 チャンネル+/−キー、または数字キーを押す

テレビ画面がチューナー画像に切り替わったことを確認します。

または

4 テレビ入力切替キーを押す

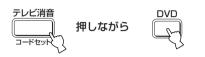
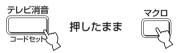
手順1で指定した入力モードの画像に切り替わるまで、キーを繰り返し押します。

5 決定キーを押して、マクロ設定を終了する

チューナー機能が搭載されていないテレビをご使用の場合

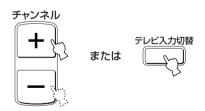
1 コードセットキーを押しながら、マクロを設定したい機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順2へすすみます。

設定例（DVD）

2 コードセットキーを押したまま、テレビマクロキーを押す

3 テレビ入力1キーを押す

テレビが入力1の画面に切り替わったことを確認します。

4 テレビ入力切替キーを押す

手順1で指定した入力モードの画像に切り替わるまで、キーを繰り返し押します。

5 決定キーを押して、マクロ設定を終了する

テレビマクロを実行するには

1 TV/AV/YSPスイッチをYSP側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

2 マクロを実行したい機器の入力選択キーを2秒以上押す

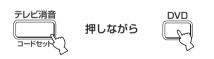
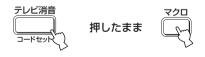
入力モードが切り替わるのと同時に、テレビの入力も切り替わります。

2秒以上押す

テレビマクロの設定を解除するには

1 コードセットキーを押しながら、マクロ設定を解除したい機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順2へすすみます。

解除例（DVD）

2 コードセットキーを押したまま、テレビマクロキーを押す

3 決定キーを押して、マクロ設定を解除する

リモコンコード一覧

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。また、メーカーや機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。複数のリモコンコードが記載されている場合は、お使いの機器に一致するものが見つかるまで順番にお試しください。

テレビ

メーカー名	リモコンコード
アイワ	294 276 283 284
RCA	293 297 234 256 257 258 221
NEC	297 252 282
LG/GOLDSTAR	297 298 239 237
SAMSUNG	297 239 248 262 275
サンヨー	295 233 279 272 273 274 212
シャープ	292 239 232 213
ソニー	263 214
DAEWOO	297 298 224 227 228
東芝	292 226 267 215
パイオニア	226 235 254 255 268
バイデザイン	201 202
パナソニック	234 235 236 253 288 211
ビクター	296 246 247 286
日立	297 239 242 243 285 206
PHILIPS	298 225 205
富士通	289
フナイ	277 278
三菱	299 297 259 287
ヤマハ	299 292 242 285 287 253 206

DVDプレーヤー

メーカー名	リモコンコード
アイワ	648 649
RCA	639
オンキョー	632 633 634
ケンウッド	628
SAMSUNG	642
シャープ	643
ソニー	644 676 677
DAEWOO	655
デノン	623 624 682
東芝	634 665 666 667
パイオニア	636 637 638 673 674 675 685 686 687
バイデザイン	678 679
パナソニック	623 635 668 672 682 683 684
ビクター	627
日立	626
PHILIPS	699 647 659
フナイ	625
MARANTZ	699 659
三菱	629
ヤマハ	699 622 623 647 682

ビデオデッキ

メーカー名	リモコンコード
アイワ	396 397 398 329
NEC	392 394 344 383
LG/GOLDSTAR	396 388
Orion	327
ケンウッド	392 394 396
SAMSUNG	354 358 363 364 365 366
サンスイ	394
サンヨー	393 336 367
シチズン	396
シャープ	395 362 382
ソニー	368 379 372 373 374 375
DAEWOO	328 334 335
東芝	335 389
TEAC	392 394 397
パイオニア	325
パナソニック	325 328 339 355 378 384 385 386
ビクター	392 394 344 345 346 347
日立	325 333 349 342 343
フナイ	397
MARANTZ	392 394
三菱	399 344 348 359 353 352
ヤマハ	399 392 393 394

ケーブルテレビチューナー

メーカー名	リモコンコード
ソニー	756 757
パイオニア	747 748 785
パナソニック	744 745 746 747 783 784
日立	722
PHILIPS	763 764 765 766 767 768

BSデジタルチューナー

メーカー名	リモコンコード
RCA	837 838 839 842
ソニー	832 835
東芝	833 836
パナソニック	826 829
ビクター	822
日立	824
PHILIPS	825 843 844 845 846 847 848 849
ユニデン	825

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをACコンセントから抜いてから、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

電源を入れてもすぐに切れてしまう

原因	対策	参照ページ
電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードが正しくACコンセントに接続されていることをご確認ください。	30
内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—

STANDBY/ONキーを押しても電源が入らない

原因	対策	参照ページ
電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードが正しくACコンセントに接続されていることをご確認ください。	30
内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—

使用中に突然電源が切れる

原因	対策	参照ページ
機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って（約1時間程度）、電源を入れなおしてください。	—
スリープタイマーが作動した。	電源を入れてソースを再生しなおしてください。	—

音声が出ない

原因	対策	参照ページ
再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	22
再生したいソースが正しく選ばれていない。	INPUTキーや入力選択キーで、再生したいソースを正しく選んでください。	45
音量が小さい。	音量を大きくしてください。	48
消音されている。	リモコンの消音キーまたは音量＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	48
サンプリング周波数が192kHzのPCMやMPEG2など、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。または再生機器の設定を変更してください。	—

音声が突然出なくなる

原因	対策	参照ページ
消音された。	リモコンの消音キーまたは音量(+/−)キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	48

有線放送などでエフェクトチャンネルの音がノイズになる

原因	対策	参照ページ
あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないでください。	—

センターチャンネルから音声が出ない

原因	対策	参照ページ
センターチャンネルの音量が絞られている。	センターチャンネルの音量を調節してください。	76

センター、サラウンド左/右から音声が出ない

原因	対策	参照ページ
ビームモードが「ステレオ」に設定されている。	ビームモードキーで、「5ビーム」、「ステレオ+3ビーム」、「3ビーム」のいずれかを選択して再生してください。	49

サラウンド左/右チャンネルから音声が出ない

原因	対策	参照ページ
サラウンド左/右チャンネルの音量が小さい。	サラウンド左/右チャンネルの音量を調節してください。	76

十分なサラウンド効果が得られない

原因	対策	参照ページ
本機とDVDプレーヤー／レコーダーやテレビをデジタル接続している場合に、DVDプレーヤー／レコーダーやテレビのデジタル出力設定が有効になっていない。	DVDプレーヤー／レコーダーやテレビ側の設定を確認してください。	—
リスニングルームが特殊な形状をしている、または本機の設置場所や視聴位置がリスニングルームの左右の壁の中央からずれている。	本機の設置場所や視聴位置を変更してください。	19
ビーム経路上に壁がない。	ビーム経路上に反射板を設置してください。	—

ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない(本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない)

原因	対策	参照ページ
接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
入力モードをANALOGに設定している。	AUTOに設定してください。	78

サブウーファーを接続していない時に、本来の音以外の雑音が出る

原因	対策	参照ページ
強い低音成分が連続して含まれるソースを再生したため、保護回路が働き雑音が出た。	音量を下げてお楽しみください。	48
	詳細設定「サブウーファー設定」で「バス出力」を「サブウーファー」に変更してください。その際「クロスオーバー」を「100Hz」または「120Hz」に設定してください。低音成分が抑えられます。	70
	サブウーファーを接続し、詳細設定「サブウーファー設定」を行ってください。	70

サブウーファーから音声が出ない

原因	対策	参照ページ
詳細設定「サブウーファー設定」で「バス出力」を「フロント」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号を再生している。	「サブウーファー」に設定してください。	70
再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		—

低音の再生不良

原因	対策	参照ページ
詳細設定「サブウーファー設定」の「クロスオーバー」が正しく設定されていない。	「クロスオーバー」を正しく設定してください。	70
ナイトリスニングモードが選択されている。	ナイトリスニングモードをオフにしてください。	60

テレビ画面にメニューが表示されない

原因	対策	参照ページ
メニュー表示用ビデオケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	23
テレビの入力切替が正しく設定されていない。	テレビの入力を切り替えてください。	34

DVDなどの映像が出ない

原因	対策	参照ページ
ビデオケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	24
テレビの入力切替が正しく設定されていない。	テレビの入力を切り替えてください。	—

本機が正常に作動しない

原因	対策	参照ページ
内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—

マイビームの自動角度調節で測定に失敗し、角度が設定されない

原因	対策	参照ページ
周囲の騒音が大きい。	手動で調節してください。	58
音がよく反射するリスニングルームを使用している。	詳細設定「設置環境」で「部屋の響き」を「大」に変更すると、測定できることがあります。	72
動作保証範囲外で測定している。	動作保証範囲内に移動するか、手動で調節してください。	58

デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている

原因	対策	参照ページ
本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機からそれらの機器を離してください。	—

リモコン

リモコンで操作できない

原因	対策	参照ページ
リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	32
受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯やストロボライトなど)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	31

外部機器をリモコンで操作できない

原因	対策	参照ページ
TV/AV/YSPスイッチがYSP側に設定されている。	TV/AV/YSPスイッチをTV/AV側にスライドさせてください。	33
操作する機器が選ばれていない。	リモコンの入力選択キーを押して、操作したい機器を選んでください。	45
リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	81
リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	各機器に付属しているリモコンをご使用ください。	—

メニューの操作中にカーソルキーの操作ができない

原因	対策	参照ページ
TV/AV/YSPスイッチがTV/AV側にスライドしてしまった。	TV/AV/YSPスイッチをもう一度YSP側にスライドさせてください。	33

技術/用語解説

5.1チャンネル

もともと映画館で臨場感のある音響効果を再現するために開発されたサラウンド・システムです。前方に3ch(左、右のステレオ2ch+セリフ用センター1ch)、後方に2ch(サラウンド効果)、さらに超低音を出すためのLFE(ロー・フリクエンシー・エフェクト)と呼ばれるチャンネルが用意されています。LFEは低音域専用で帯域が狭く、独立した音源には成り得ないことから「0.1ch」とカウントされています。

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

デジタル圧縮音声フォーマットの1つです。主に日本のBS/地上デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録・伝送できます。圧縮動画規格であるMPEG-2の中で策定されています。

DTS(デジタル・シアター・システムズ)

DTS社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット(音声圧縮技術)で、DVDなどに使用されています。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率を採用しており、クリアで厚みのある音質で5.1chサウンドが再生できるといわれています。

DTS Neo:6

DTS社が開発した、2chソースを6ch化してサラウンド再生する技術です。再生するソースに合わせて、映画用のNeo:6 Cinemaモードと音楽用のNeo:6 Musicモードが用意されています。

LFE(ロー・フリクエンシー・エフェクト)

ドルビーデジタル、DTSなどのデジタル・サラウンド・システムでは、通常の5ch(フル帯域)以外に、低域の効果音のみを出力するLFEチャンネルが用意されています。20Hz～120Hzの帯域の重低音を補助的に加えることで、迫力やリアル感が加わります。LFEは低音域専用で帯域が狭く、独立した音源には成り得ないことから「0.1ch」とカウントされています。

MPEG

ISO(工業の標準化を図る国際機関)とIEC(電気・通信などの標準化を図る国際機関)が共同で標準化した「動画」および「音声」にかかわるデジタル圧縮規格の名称です。
MPEGには、MPEG1、MPEG2、MPEG4の3つの規格があります。MPEG1の画質はVHSビデオ並みで、ビデオCDなどで利用されています。
MPEG2の画質はS-VHSビデオ並みで、DVDビデオなどで利用されています。

PCM(パルス・コード・モジュレーション)

アナログ信号をデジタル信号に変換する代表的な方式です。PCMは非常に短く区切った単位時間あたりの信号レベルを符号化(コード化)します。MP3形式やATRAC形式のような圧縮処理を用いないことから、リニアPCMとも呼ばれています。CDやDVDオーディオの録音方式などに採用されています。

SRS TruBass

SRS社が開発した、低音を増強再生する技術です。原音に含まれる異なる周波数の信号を利用して差成分を作り出し、その差成分で脳に低音を感じさせるようにしています。

音場

空間が持つ固有の音の響きのことです。音場を形成する要素には、音源から直接耳に届く直接音、音の明瞭度や音量を増大させる初期反射音、美しい余韻や艶を与える後部残響音の3要素があります。

シネマDSP

世界中の著名なコンサートホールや劇場などの音の響きを実際に測って作成したデータと各種サラウンドデコーダーをかけ合わせ、ヤマハ独自の技術で生み出された音場プログラムの総称です。映画館や劇場と環境が異なる一般家庭でも、映画や音楽がより臨場感をもって楽しめるように設計されています。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット(音声圧縮技術)で、DVDの標準音声形式のひとつとなっています。フォーマットとしては1chから5.1chまで用意されていますが、一般的には前方3ch、後方2ch、LFE(低域効果音)0.1chの5.1chでサラウンドを構成します。各チャンネルが独立した信号で録音されているため、非常に明瞭な音声で再生することができます。

ドルビープロロジック

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、ステレオ信号をサラウンド再生するためのアナログ技術です。ドルビーサラウンドエンコードされている2chソースを、前方3chと後方1ch(モノラル)の4chでサラウンド再生します。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックの上位規格で、ステレオ信号を5.1chで再生するための技術です。後方のサラウンドchはステレオ化されているのと同時に、周波数特性がフル帯域化されています。再生するソースに合わせて、映画用のMovieモードと音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードの3つが用意されています。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力(EIAJ)
.... 2W(1kHz,10%THD,4Ω)×21個
+20W(100Hz,10%THD,4Ω)×2個

スピーカー部

小口径スピーカー
.... 4cmコーン防磁型×21個
ウーファー........... 10cmコーン防磁型×2個

入力端子

オーディオ　ビデオ、テレビ/チューナー(アナログ)(1V/32kΩ)
.... 2組(アナログ音声)
オーディオ　テレビ/チューナー、DVD(光デジタル)................... 2個(デジタル音声)
オーディオ　AUX(同軸デジタル)
.... 1個(デジタル音声)

出力端子

サブウーファー(1.5V/120Hz以下)..... 1個
ビデオ（1Vp-p/75Ω）........................... 1個

システム接続端子

OPTIMIZER MIC .... 1個(マイク入力)
システム接続.... 1個(システムコントロール)

総合

電源電圧......................... AC100V、50/60Hz
消費電力.. 37W
待機時消費電力.................................. 0.1W以下
寸法(幅×高さ×奥行き)
.... 800×153×115mm
質量 9.0kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第3-2部：限度値ー高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

索引

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。
http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ お客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

FAX (053) 460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00〜12:00、13:00〜18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053) 463-1127

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月〜金曜日 9:00〜19:00　土曜日 9:00〜17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月〜金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00〜17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか?
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1

YAMAHA

YSP-900 簡易接続・操作ガイド

この簡易接続・操作ガイドは、テレビやDVDプレーヤーを接続してYSP-900のサラウンドサウンドを楽しむまでの手順を説明しています。詳しい内容については取扱説明書をご覧ください。

YSP-900 を設置する

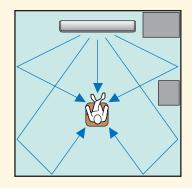
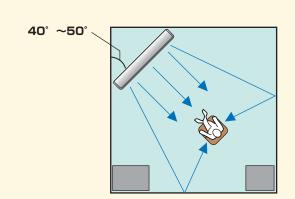
YSP-900 の設置場所を決定します。

本機は下図のように音声をビーム化して出力します(矢印はビーム化した音声と各ビームの経路を表しています)。効果的なサラウンド感を得るために、ビームの経路と家具などの障害物が重ならない場所に本機を設置してください。

本機を壁と並行に、リスニングルームの中央に設置した場合のイメージ図です。

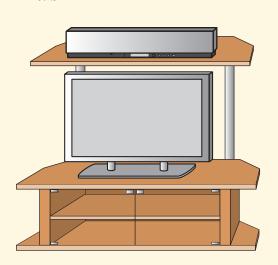
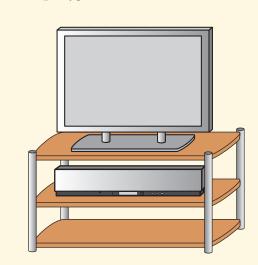
家具などの障害物

本機をリスニングルームのコーナーに設置した場合のイメージ図です。隣接する壁との角度が 40°～50°の間におさまるように設置してください。

家具などの障害物

YSP-900 をテレビの上または下に設置します。

下図の設置例を参考にして本機を設置してください。設置の詳細については取扱説明書20ページをご覧ください。

本機は落下防止のため、固定テープで確実に固定してください(取扱説明書21ページ)。

本機をテレビの上に設置できるタイプのラックを使用して、下図のようにテレビの上に設置します。
地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように設置してください。

本機を内部に収納できるタイプのラックを使用して、下図のようにテレビの下に設置します。
床から離れた高さに本機を設置すると、より効果的なサラウンド感を得られます。

テレビや DVD プレーヤーなどを接続する

YSP-900 をテレビや DVD プレーヤーなどに接続します。

下図の接続例を参考にして本機をテレビやDVDプレーヤーなどに接続してください。サブウーファーを接続すると、よりダイナミックな低音を楽しめます。
接続の詳細や他機器との接続については取扱説明書22～30ページをご覧ください。

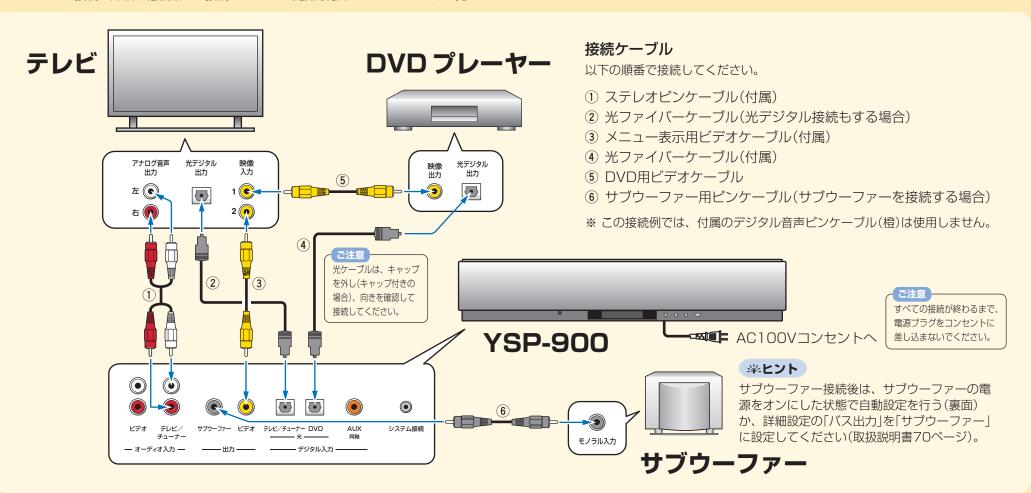
接続ケーブル

以下の順番で接続してください。

① ステレオピンケーブル(付属)
② 光ファイバーケーブル(光デジタル接続もする場合)
③ メニュー表示用ビデオケーブル(付属)
④ 光ファイバーケーブル(付属)
⑤ DVD用ビデオケーブル
⑥ サブウーファー用ピンケーブル(サブウーファーを接続する場合)

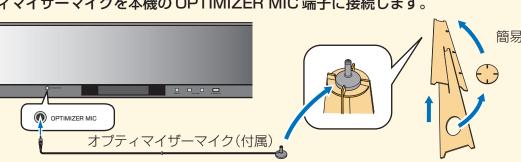
※ この接続例では、付属のデジタル音声ピンケーブル(橙)は使用しません。

ヒント

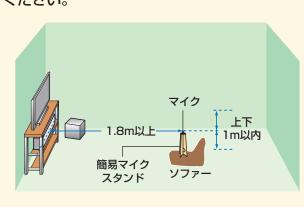
サブウーファー接続後は、サブウーファーの電源をオンにした状態で自動設定を行う(裏面)か、詳細設定の「バス出力」を「サブウーファー」に設定してください(取扱説明書70ページ)。

YSP-900 を自動設定する

オプティマイザーマイクを YSP-900 に接続し、設置します。

本機では付属のオプティマイザーマイクを使用することにより、各チャンネルの設定を自動的に調節できます。下図を参考にしてマイクを接続・設置してください。

オプティマイザーマイクを本機の OPTIMIZER MIC 端子に接続します。

簡易マイクスタンド(付属)

マイクスタンドは自動設定で使用すると便利です。
左図のように組み立て、オプティマイザーマイクを上に置いて使用します。

マイクを実際に視聴する位置に設置します。付属のマイクスタンド(上図)などを利用して、できるだけ視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。

マイクは本機から1.8m以上離し、本機の中心線上に設置してください。また、本機から上下1m以内の位置に設置してください。
ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので障害物ではありません。

マイクの設置が完了したら、本機を自動設定します。裏面へお進みください。

裏面へつづく

Printed in Malaysia WH90300

表面から のつづき

YSP-900 を自動設定し、最適な視聴空間をつくります。

接続・設置したオプティマイザーマイクを使用してリスニングルームの環境などを測定し、各チャンネルの設定を自動的に調節します。
測定中は大きなテスト音が出力されます。小さなお子様がお部屋にいる場合やお部屋に入ってくる可能性がある場合は、自動設定機能を使用しないでください。

❶ リモコンの電源キーを押す

本機の電源がONになります。

サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの電源を入れて、「VOLUME」を半分または半分よりやや小さめ（右図参照）に設定してください。
サブウーファーにクロスオーバー／ハイカット周波数の調節機能がある場合は、「CROSSOVER/HIGH CUT」を「MAX」（右図参照）に設定してください。

サブウーファー

❷ テレビの電源を入れる

❸ テレビの映像入力切替を操作して、YSP-900 の映像に切り替える

表面の接続例のように、メニュー表示用ビデオケーブルをテレビの映像入力2に接続した場合は、テレビの映像入力を「2」に切り替えます。

❹ TV/AV/YSP スイッチを YSP 側にスライドさせる

YSPモードに切り替わります。

❺ 自動設定キーを 2 秒以上押す

テレビに下の画面が表示されます。画面が表示されない場合は、表面接続例の「③ メニュー表示用ビデオケーブル」が正しく接続されているか確認してください。

❻ マイクの位置について以下のことを確認する

- 本機の正面に設置されていますか。
- 本機から上下1m以内の高さに設置されていますか。
- 本機から1.8m以上離れた場所に設置されていますか。

❼ 決定キーを押して、測定を開始する

テレビに下のような画面が表示されます。

ヒント
- 測定中はお部屋の外に出てください。
- 測定開始から完了まで**約3分**かかります。
- 測定中に自動設定を中止したい場合は、戻るキーを押してください。

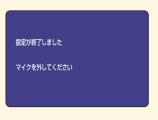
測定中の項目に従って、画面が自動的に切り替わります。
エラー音（ブザー音）が出力され、画面にエラーメッセージが表示された場合は、「エラーメッセージとエラー後の操作について」（取扱説明書41ページ）を参照して問題を解決してください。
その後、戻るキーを押して手順5から再度設定してください。

測定が終了すると終了音（チャイム音）が出力され、下のような画面が表示されます。

〈表示例1〉 〈表示例2〉

※ 本機の設置位置やサブウーファーの有無などにより、結果表示画面は異なります。

❽ 設定を有効にする場合は決定キーを、無効にする場合は戻るキーを押す

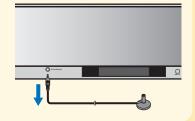
手順7で〈表示例1〉のような画面が表示された場合、決定キーを押すと下の画面が表示され、2秒後にメニューが消えます。

戻るキーを押して、設定を無効にすると初期画面に戻ります。

手順7で〈表示例2〉のような画面が表示された場合、決定キーを押すと下の画面が表示されます。

この場合、取扱説明書41ページの「エラーE-1」をご参照ください。
再度測定する場合は、決定キーを押してメニューが消えたことを確認したら、手順5から操作し直してください。

❾ マイクを外す

設定完了です。マイクは大切に保管してください。

測定結果は本機に記憶され、電源を切っても初期設定値には戻りません。

音声をサラウンドで楽しむ

テレビや DVD の音声をサラウンドで楽しみます。

テレビやDVDの機能または操作については、ご使用のテレビやDVDに付属している取扱説明書をご覧ください。
本機の音量は30程度に設定し、「手順5」で必要に応じて調節してください。

テレビを視聴する

❶ **テレビのリモコンで、見たいチャンネルを選ぶ**

DVD を再生する

❶ **テレビの映像入力切替を操作して、DVD の映像に切り替える**

❷ **TV/AV/YSP スイッチを YSP 側にスライドさせる**

YSPモードに切り替わります。

❸ **本機のリモコンのテレビキーを押す**（テレビを視聴する）

テレビの再生モードに切り替わります。

❸ **本機のリモコンの DVD キーを押してから、DVD を再生する**（DVD を再生する）

DVDの再生モードに切り替わります。

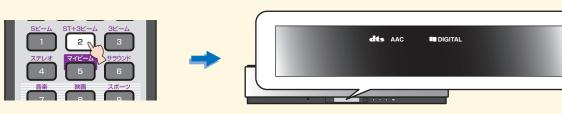
❹ **テレビのスピーカーから音声が聞こえる場合は、音声が聞こえなくなるまでテレビの音量を下げる**

ご使用のテレビのリモコンを使って操作してください。

❺ **リモコンの音量＋ / －キーを押して、音量を調節する**

❻ **リモコンのビームモードキー（ST＋3ビーム）を押して、デジタル信号が本機に入力されているか確認する**

DVDソフトの5.1chサラウンドデジタル信号や、テレビのBS/地上デジタル放送の信号を再生しているときは、フロントパネルディスプレイに dts、AAC、DIGITAL のうちいずれかのインジケーターが点灯します。
インジケーターが点灯しない場合は、**本機とDVDプレーヤー/テレビがデジタル接続されているか**、または**DVDプレーヤー/テレビ側のデジタル出力設定がオンになっているか**ご確認ください。

ヒント
サラウンド確認用DVD（付属）を使用すると、DVDプレーヤーから本機にデジタル信号が入力されているか確認するのに便利です。

❼ **リモコンのビームモードキーを押して、ビームを変更する**

ビームモードを変更することにより、ステレオ再生から5.1チャンネルのマルチチャンネル再生まで5種類の再生モードをお楽しみいただけます。
ビームモードについては取扱説明書49～50、56～58ページをご覧ください。

YSP-900 のサラウンドサウンドはお楽しみいただけましたか？リスニング環境をより詳細に設定したい場合は「本機を詳細に設定する」（取扱説明書 63 ページ～）をご参照ください。